



USB AUDIO/MIDI PERSONAL STUDIO

UW500PLUS

取扱説明書

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。


	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

**警告**

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

**注意**

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

この製品の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



警告

電源 / 電源アダプター



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの(PA-3B) を使用する。
(異なった電源アダプターを使用すると) 故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。



禁止

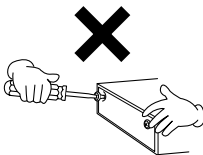
電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。
感電や火災、または故障の原因になります。



禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にはろうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

電源アダプターコード / プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



注意

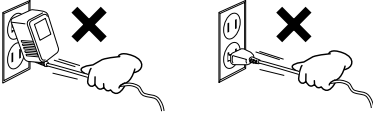
電源 / 電源アダプター



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源アダプターコードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

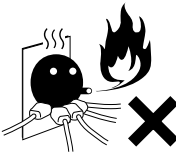
感電や火災、故障の原因になることがあります。



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



設置



禁止

直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。

本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



禁止

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。

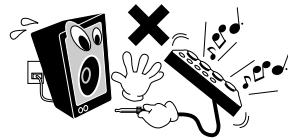
接続



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。

感電または機器の損傷の原因になることがあります。



手入れ



禁止

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。

本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

使用時の注意



禁止

パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



禁止

本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。

本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様や他の方々への被害を及ぼす原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

電源スイッチを切った状態（電源スイッチが「STANDBY」の状態）でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。



音のエチケット

これは日本電子工業会「音のエチケット」キャンペーンのマーク

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、楽しい生活環境を守りましょう。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

ごあいさつ

このたびは、ヤマハ USB AUDIO/MIDI パーソナルスタジオ UW500PLUS をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

UW500PLUS は、オーディオデータと MIDI データの同時転送が可能な USB インターフェイスと、音楽制作をサポートするソフトウェアをセットにしたパッケージです。USB 端子装備のコンピュータと接続して、パワフルなデジタルオーディオをお楽しみください。

UW500PLUS の優れた機能を使いこなしていただくために、この取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。また、ご一読いただいた後も不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管されますよう重ねてお願い申し上げます。

ご注意

本製品および取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。

巻末に本製品のソフトウェアのご使用条件が記載されています。本製品のソフトウェアをインストールする前に、必ずこのご使用条件をお読みください。封をされた CD-ROM のパックを開けるか、ユーザー登録カードを送り返すと、本製品のソフトウェアのご使用条件に同意したことになります。

本製品および取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。


本製品および取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。

このソフトウェアの CD-ROM は、オーディオ用ではありません。一般のオーディオ用 CD プレーヤーでは絶対に使用しないでください。

市販の音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様や画面と異なる場合がありますので、ご了承ください。アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。

この取扱説明書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- * 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- * 「ソフトシンセサイザー」はヤマハ株式会社の商標です。
- * 「ASIO」は Steinberg Media Technologies AG の商標です。
- * 「OMS」および  は Opcode Systems, Ins. の商標です。
- * MPEG Layer-3 audio compression technology licensed by Fraunhofer IIS and THOMSON multimedia.

目次

UW500 の特長	8
USB に関するご注意	9
音楽著作権に関するご注意	10
パッケージの内容	11
付属ソフトについて	11
動作環境	16
各部の名称と機能	18
接続について	22
ドライバのインストール	28
Windows	30
Macintosh	43
デモソングを聞いてみよう	51
Windows	51
Macintosh	54
ハードディスクレコーディングにチャレンジ	58
サンプルフレーズを使って曲づくりにチャレンジ	68
Windows	68
Macintosh	75
ASIO ドライバのインストール	79
Windows	79
Macintosh	86
付属ソフトウェアの設定について	90
ドライバの設定変更 (MIDI パッチ画面)	91
仕様	97
故障かな？と思ったら (Q&A)	98
ユーザーサポートのご案内	102
保証とアフターサービス	105

UW500 の特長

オーディオと MIDI の同時転送

オーディオデータと MIDI データを同時に使用することができます。

オーディオ入出力は、アナログ（マイク／ギター入力、ライン入出力）とデジタル（オプティカル入出力）の両方に対応しています。MIDI 入出力は、MIDI IN/OUT 端子と TO TG 端子（コンピュータのシリアルポートに相当）により、マルチポート（MIDI 出力 6 ポート、MIDI 入力 2 ポート）のパワフルな音楽制作環境をサポートします。

クリアなサウンドを実現

コンピュータの音声入力端子を使用してオーディオ録音すると、オーディオデータをデジタルに変換する際にコンピュータのノイズを拾って音質が劣化してしまいます。UW500 ではアナログ入力も UW500 本体でデジタルに変換するので、クリアなサウンドでのハードディスクレコーディングが可能です。

ケーブルをつなぐだけの簡単接続

USB で接続するので、コンピュータの電源を入れたまま、ケーブルの抜き差しができます。また、ドライバをインストールしたらすぐに使えます。

付属ソフトウェアが音楽制作をサポート

付属ソフト SQ01（Macintosh の場合は XGworks lite V3.0A）や TWEplus を組み合わせて、手軽にハードディスクレコーディングを楽しむことができます。また MIDI 音源がない場合も、ソフトシンセサイザー S-YXG50 を使って、オーディオデータと MIDI データの同時演奏が可能です。

Windows と Macintosh に対応

Windows 98/Me/2000/XP および MacOS 9.04 以上（MacOS X は非対応）に対応しています。

ASIO2.0 ドライバが付属

音楽制作用のオーディオドライバである ASIO2.0 対応ドライバが付属しています。これにより、オーディオ信号のレイテンシー（発音の遅れ）を極力抑え、ストレスの少ない音楽制作をサポートします。

(NOTE) ASIO は、Steinberg 社が提唱するオーディオインターフェースの規格です。

USB に関するご注意

以下の状態で UW500 の電源オン / オフ、または USB ケーブルの抜き差しをすると、コンピュータがハングアップしたり、UW500 の機能が停止したりする恐れがあります。

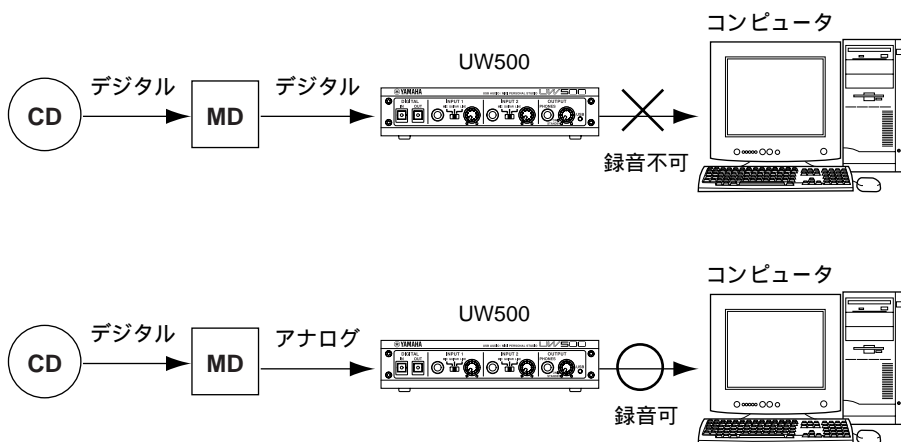
- デバイス認識中またはドライバロード中
- OS 起動途中または終了途中
- サスペンド (スリープ)、レジューム中
- オーディオ / MIDI アプリケーションが起動している状態

また、以下の行為をすると、同様にコンピュータがハングアップしたり、UW500 の機能が停止したりする恐れがあります。

- 頻繁な電源のオン / オフやケーブルの抜き差し
- オーディオ / MIDI データ転送中のサスペンド (スリープ) モードへの移行、レジューム
- UW500 が電源オンの状態でのケーブルの抜き差し
- 大量にデータが流れている状態での UW500 の電源オン / オフ、コンピュータの起動、またはドライバのインストール

音楽著作権に関するご注意

音楽ソフトの著作権を保護するため、UW500 は SCMS(シリアルコピーマネージメントシステム) に対応しています。CD などの市販ソフトからデジタルコピーした MD などのデータには、デジタル録音の世代情報が含まれています。その信号を DIGITAL IN 端子にデジタル入力した場合、コンピュータでは録音できません。コンピュータに録音したい場合は、アナログ入力 (INPUT 1 ~ 3 端子) をお使いください。



本製品を利用することにより録音できる著作権曲 / サウンドデータについては、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、商業的な目的で使用する、著作権者の許可無く複製、転送または配信したり、不特定多数にむけて再生および演奏することを禁じられています。私的使用以外の目的でご使用の場合は、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。本製品を使用して作成・複製・編集される著作物またはその複製物およびその利用に関する責任は当社では一切負いかねますのでご了承ください。

パッケージの内容

UW500 のパッケージの中には、次のものが入っています。箱を開けたらまず入っているものを確認してください。

UW500 本体

電源アダプター (PA-3B)

CD-ROM

USB ケーブル (約 2m)

取扱説明書 (本書)

ユーザー登録カード / 愛用者カード

保証書

付属ソフトについて

同梱の CD-ROM には以下のソフトウェアが付属しています。

Windows

USB-MIDI ドライバ (YAMAHA USB-MIDI Driver)

UW500 の MIDI 機能を動作させるために必要なドライバです。

インストール方法については、P.30 をご参照ください。

ASIO ドライバ

ASIO とは、Steinberg 社が提唱している音楽制作用のオーディオインターフェースの規格です。Windows 標準のオーディオドライバに比べて、オーディオ信号のレイテンシー (発音の遅れ) が低減し、高音質なレコーディングが可能になります。

ASIO ドライバをインストールすることによって、Cubase や Logic などの ASIO 対応のアプリケーションで UW500 をお使いいただけるようになります。インストール方法については、P.79 をご参照ください。また、Windows 標準のドライバと ASIO ドライバの違いについては、P.29 をご参照ください。

Windows XP 用 USB オーディオ修正モジュール

Windows XP において、USB オーディオ再生中にノイズが発生する問題が、マイクロソフト社および弊社で確認されております。Windows Update で Windows XP を最新版にアップデートしていない場合は、マイクロソフト社が提供するこの修正モジュールをインストールしておいてください。

「forWinXP」フォルダの中の「Q307271_WxP_SP1_x86_JPN.exe」をダブルクリックすると、インストーラが起動します。ここから先は画面の指示に従ってインストールしてください。

パッケージの内容

なお、修正モジュールの詳細については、以下のマイクロソフト社のサイトをご覧ください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;JA;q307271>

SQ01

本格的な音楽制作環境を提供する、Windows 対応の MIDI/ オーディオシーケンスソフトです。MIDI とデジタルオーディオを同レベルで扱えるというだけでなく、MIDI/ オーディオミキシングなどを含め、音楽制作の最終過程までをこのソフト上で進めていくことができる、トータルな音楽制作ツールです。

「SQ01_」フォルダの中の「Setup.exe」をダブルクリックすると、インストーラが起動します。ここから先は画面の指示に従ってインストールしてください。操作方法について詳しくは、[ヘルプ] メニューから起動するオンラインヘルプをご覧ください。

XG Editor (エックスジー エディター)

XG 音源 (S-YXG50 など) の音色をエディットするソフトウェアです。SQ01 のプラグインソフトとして動作します。

「Plug_」フォルダの中の「XGE_」フォルダにある「Setup.exe」をダブルクリックすると、インストーラが起動します。ここから先は画面の指示に従ってインストールしてください。SQ01 の [プラグイン] メニューから [XG Editor] を選択すると起動します。

操作方法について詳しくは、[ヘルプ] メニューから起動する PDF マニュアルをご覧ください。

Auto Arranger (オートアレンジャー)

入力したメロディに対して曲調と伴奏スタイルを指定するだけで、簡単に伴奏パートを作成することができるソフトウェアです。SQ01 のプラグインソフトとして動作します。

「Plug_」フォルダの中の「AA_」フォルダにある「Setup.exe」をダブルクリックすると、インストーラが起動します。ここから先は画面の指示に従ってインストールしてください。SQ01 の [表示] メニュー [オートアレンジャー] [開く] を選択すると起動します。

操作方法について詳しくは、[ヘルプ] メニューから起動するオンラインヘルプをご覧ください。

Wave Editor TWEplus (ウェーブエディター TWE プラス)

ウェーブファイルを録音 / 再生 / 編集するためのソフトウェアです。また、さまざまなフォーマット (MP3、WAV、AIFF) に対応しており、フォーマットの変換も可能です。

「TWEplus_」フォルダの中の「Setup.exe」をダブルクリックするとインストーラが起動します。ここから先は画面の指示に従ってインストールしてください。インストール後、[スタート] メニュー [プログラム] [YAMAHA TWEplus] にある [Wave Editor TWEplus] を選択すると起動します。

また、SQ01の[設定]メニュー [ウェーブエディター]でTWEplusを選択すると、SQ01からTWEplusを起動することができます。操作方法について詳しくは、PDFマニュアルをご覧ください。

ソフトシンセサイザー (S-YXG50 V4.0)

コンピュータのCPUパワーを使って発音する、ソフトウェアタイプのXG音源です。ソフトシンセサイザーをインストールすることによって、外部MIDI音源を接続しなくても、高音質なMIDIデータの演奏を楽しむことができます。

「Syxg50_」フォルダの中の「Setup.exe」をダブルクリックするとインストーラが起動します。ここから先は画面の指示に従ってインストールしてください。

使用方法について詳しくは、インストール後、[スタート]メニュー [プログラム] [YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50]にある[S-YXG50 ヘルプ]をご覧ください。

(NOTE) 付属のS-YXG50をインストールしてサウンドボードなどから音が出なくなった場合は、[スタート]メニュー [プログラム] [YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50] [S-YXG50 設定] [詳細設定 2/2]の設定画面でお使いのデバイスを選択してください。

(NOTE) Windows2000/XPをお使いのお客様へ

Windows2000/XPをお使いでS-YXG50からの再生音に音切れなどが発生する場合は、以下のように設定を変更することで、この問題を解決できることがあります。

1. Administrator 権限のあるアカウントで Windows にログオンして、同梱 CD-ROM の「Syxg50_」フォルダを開きます。
2. 「Turbo.inf」または「Normal.inf」ファイルを右クリックすると表示されるポップアップメニューの中から「インストール」を選択します。
「Normal.inf」:
音切れする場合がありますが、ほとんどのサウンドカードで音が出ます(初期設定)
「Turbo.inf」:
音切れしにくいですが、一部のサウンドカードでは音が出ない場合があります
3. コンピュータを再起動します。

Acrobat Reader

PDF形式の取扱説明書を画面上で見るためのソフトウェアです。「Acroread_」フォルダの中の「Arxxxjpn.exe」(xxxには数字が入ります)をダブルクリックするとインストーラが起動します。ここから先は画面の指示にしたがってインストールしてください。

パッケージの内容

Macintosh

OMS

Opcode 社より提供されている Macintosh 用 MIDI ドライバです。

インストールおよび使用方法の詳細については、P.43 および付属の OMS マニュアル「OMS2.3J_Manual.pdf」をご参照ください。

USB-MIDI ドライバ (YAMAHA USB-MIDI Driver)

UW500 の MIDI 機能を動作させるために必要なドライバです。

必ず OMS をインストール後にインストールしてください。インストール方法については、P.43 をご参照ください。

ASIO ドライバ

ASIO とは、Steinberg 社が提唱している音楽制作用のオーディオインターフェースの規格です。MacOS 標準のオーディオドライバに比べて、オーディオ信号のレイテンシー（発音の遅れ）が低減し、高音質なレコーディングが可能になります。

ASIO ドライバをインストールすることによって、Cubase や Logic などの ASIO 対応のアプリケーションで UW500 をお使いいただけるようになります。インストール方法については、P.86 をご参照ください。また、MacOS 標準のドライバと ASIO ドライバの違いについては、P.29 をご参照ください。

XGworks lite V3.0A for Macintosh

本格的な音楽制作をお楽しみいただける、Macintosh 対応のシーケンスソフトです。MIDI による演奏データの作成だけでなく、オーディオデータも扱えるので、高度な音楽制作をお楽しみいただけます。

「XGworks_」フォルダの中の「XGworks lite のインストール」をダブルクリックするとインストーラが起動します。ここから先は画面の指示にしたがってインストールしてください。

使用方法について詳しくは、インストール後、PDF 形式のマニュアルをご覧ください。ただし、付属の PDF ファイルは、XGworks V3.0 に関して記述しており、XGworks lite V3.0A では、以下の機能がご使用になれません。

- ・ スタッフウィンドウおよび楽譜印刷
- ・ ドラムウィンドウ
- ・ コントロールセクション
- ・ ボイストゥスコア R
- ・ オートアレンジャー
- ・ ギターアレンジャー
- ・ オートプレイ
- ・ インポーター
- ・ SW1000XG Mixer
- ・ XF インフォメーションエディター

Wave Editor TWEplus (ウェーブエディター TWE プラス)

ウェーブファイルを録音 / 再生 / 編集するためのソフトウェアです。また、さまざまなフォーマット (MP3、WAV、AIFF) に対応しており、フォーマットの変換も可能です。

「TWEplus_」フォルダの中の「TWEplus のインストール」をダブルクリックするとインストーラが起動します。ここから先は画面の指示に従ってインストールしてください。インストール後、「TWEplus」フォルダ内の「TWEplus」をダブルクリックして起動します。操作方法について詳しくは、オンラインマニュアルをご覧ください。

ソフトシンセサイザー (S-YXG50)

コンピュータの CPU パワーを使って発音する、ソフトウェアタイプの XG 音源です。ソフトシンセサイザーをインストールすることによって、外部 XG 音源を接続しなくても、高音質な MIDI データの演奏を楽しむことができます。

「Syxg50_」フォルダの中の「S-YXG50 Vx.xx のインストール」(x.xx には数字が入ります) をダブルクリックするとインストーラが起動します。ここから先は画面の指示にしたがってインストールしてください。

使用方法について詳しくは、「XGplayer for Mac」フォルダの中の「S-YXG50 マニュアル.pdf」をご覧ください。

Acrobat Reader

PDF 形式の取扱説明書を画面上で見るためのソフトウェアです。「Acroread_」フォルダの中の「Japanese Reader Installer」をダブルクリックするとインストーラが起動します。ここから先は画面の指示にしたがってインストールしてください。

動作環境

Windows

対応 OS	Windows XP Professional/XP Home Edition/2000/Me/98SE/98 (いずれも日本語版)
CPU	500MHz 以上の Intel Pentium/Celeron ファミリーのプロセッサ (WindowsXP の場合は同ファミリープロセッサ 750MHz 以上を推奨)
メモリ	64MB 以上 (128MB 以上推奨)
ハードディスク	300MB 以上の空き容量
ディスプレイ	800 × 600 ドット、High Color 16bit 以上のディスプレイ

Macintosh

対応 OS	MacOS 9.0.4 以上 9.2.2 まで含む (MacOS X および Classic 環境は非対応)
CPU	PowerPC G3/300MHz 以上
メモリ	64MB 以上 (128MB 以上を推奨)

(NOTE) ただし、仮想メモリは「切」にしてください。

ハードディスク	85MB 以上の空き容量
---------	--------------

(NOTE) 一部の Macintosh コンピュータ(主に 2000 年夏以降に発売されたモデル)では、録音時にノイズがのることが確認されています。対策として、以下の方法を推奨しております。

- ・ ネットワークに LAN で接続している場合は、LAN ケーブルを接続したままにします。
- ・ モデムを使用またはネットワークに接続していない場合は、コントロールパネルの「TCP/IP」の経由先を「PPP」に設定します。

最新の情報については、以下のヤマハのホームページの製品情報や FAQ をご覧ください。

<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/>

録音できるサンプリング周波数と OS / 入力端子の関係

SQ01 や XGworks などのソフトウェアで録音するときに録音可能なサンプリング周波数は、以下のように使用する OS や入力端子によって異なります。

OS	SOURCE SELECT スイッチの設定 (使用する入力端子)	ソフトウェアでの録音周波数				
		11.025 kHz	22.05 kHz	32 kHz	44.1 kHz	48 kHz
MacOS 9.04 以上	DIGITAL	×	×			
	ANALOG (INPUT)	×	×			
Windows98	DIGITAL	×	×			
	ANALOG (INPUT)	×	×			
Windows98SE/ Me/2000/XP	DIGITAL	×	×			
	ANALOG (INPUT)					

再生される周波数と OS の関係

SQ01 や XGworks などのソフトウェアで再生したときに DIGITAL OUT 端子から出力される信号の周波数は、以下のように使用 OS によって異なります。

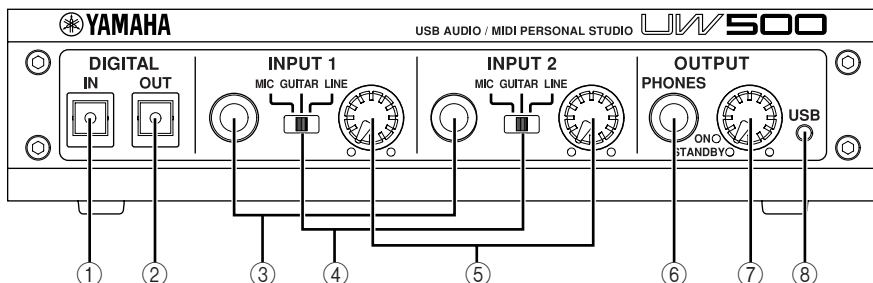
DIGITAL OUT 端子に接続する機器 (MD レコーダーなど) がこのサンプリング周波数に対応していることをご確認ください。

(NOTE) OUTPUT 端子 (アナログ) からの出力は、表中のいずれのサンプリング周波数でも正しく再生されます。

OS	ソフトウェアでの再生周波数				
	11.025kHz	22.05kHz	32kHz	44.1kHz	48kHz
MacOS 9.04 以上	44.1kHz	44.1kHz	32kHz	44.1kHz	48kHz
Windows98	44.1kHz	44.1kHz	32kHz	44.1kHz	48kHz
Windows98SE/Me/ 2000/XP	48kHz	48kHz	32kHz	44.1kHz	48kHz

各部の名称と機能

フロントパネル



- ① DIGITAL IN(デジタルイン) 端子
MD や CD プレーヤーなどのデジタル信号を入力する端子です。接続には光デジタルケーブル(角型プラグ)を使用します。また、リアパネルの INPUT SELET スイッチを「DIGITAL」に設定します。

- ② DIGITAL OUT(デジタルアウト) 端子
コンピュータからのデジタル信号をそのまま MD などのデジタルレコーダーに録音するための端子です。接続には光デジタルケーブル(角型プラグ)を使用します。

(NOTE) 入力端子(INPUT 1 ~ 3 端子、AUX IN 端子、DIGITAL IN 端子) への信号を直接 DIGITAL OUT 端子に出力することはできません。

- ③ INPUT(インプット) 1/2 端子
マイクをはじめ、ギター、ベース、電子楽器、CD プレーヤーなどの音声信号を入力する端子です。接続には、モノラル標準プラグを使用します。

(NOTE) INPUT 1 ~ 3 端子を使用する場合は、リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「STEREO」または「MONO」に設定します。

- ④ INPUT(インプット)1/2ゲイン切り替えスイッチ

INPUT 1/2 端子に入力する信号の種類を設定します。

ステレオでライン入力する場合は、ゲイン切り替えスイッチを「LINE」に設定し、INPUT 1 端子に L 信号、INPUT 2 端子に R 信号を入力します。また、リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「STEREO」に設定します。

- ⑤ INPUT(インプット)1/2ボリュームつまみ
INPUT 1/2 端子から入力された音声信号の音量を調節します。

- ⑥ PHONES(ヘッドフォン) 端子
標準プラグのヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンの音量は、OUTPUT つまみで調節します。

⑦ OUTPUT(アウトプット)つまみ

電源のオン / スタンバイ (オフ) を切り替えます。つまみを回してカチッと音がするごとに電源のオン / スタンバイが切り替わります。

また電源がオンの場合、UW500 全体の音量を調節します。ただし、DIGITAL OUT 端子からの出力音およびリアパネルの AUX IN 端子への入力音は調節できません。



スタンバイ (オフ) の状態でも微電流が流れています。UW500 を長時間使用しないときは必ず電源アダプターをコンセントから抜いてください。

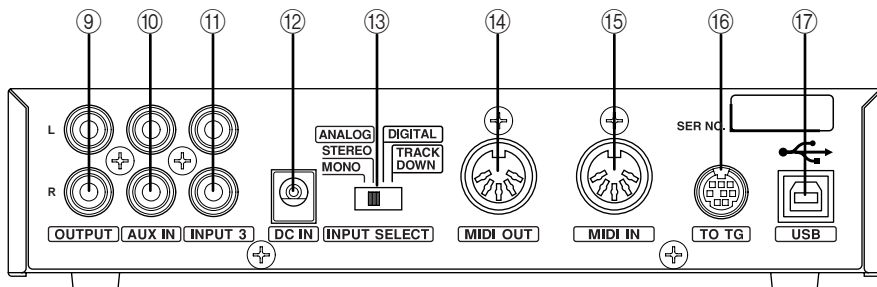
⑧ USB(ユーエスピー)LED

UW500 に電源が供給されると赤色に点灯し、コンピュータと正常に接続されると緑色に点灯します。また、MIDI 信号を送受信すると緑色に点滅します。INPUT SELECT スイッチを「TRACK DOWN」に設定している場合は、オレンジ色に点灯します (P.21)。

DIGITAL IN 端子に入力された信号のサンプリング周波数が適切でない場合は、オレンジ色に点滅し、録音できません。この場合、コンピュータのアプリケーション上で、入力する信号に合わせて適切な周波数に設定します。著作権保護された信号を DIGITAL IN 端子から録音しようとすると、赤と緑が交互に点滅し、録音できません (P.10)。

各部の名称と機能

リアパネル



⑨ OUTPUT(アウトプット) 端子

アンプ内蔵スピーカーなどの再生装置やテープレコーダーなどの録音装置を接続するための端子です。接続には、RCA ピン L/R 端子を使用します。

⑩ AUX IN(オックスイン) 端子

CD プレーヤーなどのオーディオ機器を接続するための端子です。入力された信号は、コンピュータを bypass せずにそのまま OUTPUT 端子および PHONES 端子から出力されます (DIGITAL OUT には出力されません)。接続には、RCA ピン L/R 端子を使用します。

(NOTE) この端子に入力された音声信号をコンピュータに録音することはできません。録音する場合は、INPUT 3 端子を使用します。

⑪ INPUT(インプット) 3 端子

CD プレーヤーなどのオーディオ機器を接続するための端子です。入力された音声信号はコンピュータに録音することができます。接続には、RCA ピン L/R 端子を使用します。

(NOTE) INPUT SELECT スイッチが「MONO」に設定されている場合も、この端子へはステレオで入力されます。

⑫ DC IN(ディーシーイン) 端子

付属の電源アダプター PA-3B を接続する端子です。

! 電源アダプターを接続する場合は必ず本体の電源がオフ (スタンバイ) になっていることを確認し、電源アダプターを DC IN 端子につないでから電源コンセントに接続してください。

⑬ INPUT SELECT(インプットセレクト) スイッチ

使用する入力端子 (INPUT 1 ~ 3 端子 または DIGITAL IN 端子) を切り替え、また入力する信号の種類を設定します。

INPUT 1/2 端子に電子楽器やオーディオ機器などのステレオ信号 (INPUT 1 に L 信号、INPUT 2 に R 信号) を入力する場合は、「STEREO」に設定します。INPUT 1 端子と INPUT 2 端子にマイクやギターなどのモノラル信号を入力する場合は、「MONO」に設定します。DIGITAL IN 端子にデジタル信号を入力する場合は、「DIGITAL」に設定します。

(NOTE) DIGITAL IN と INPUT 1 ~ 3 端子を同時には使用できません。

また、「TRACK DOWN」に設定すると、USB 端子から出力されたオーディオ信号はそのまま USB 端子に戻されます。複数のウェーブファイルやソフトシンセサイザーのオーディオ信号を一つのウェーブファイルにトラックダウンする場合に使用します。この場合、USB LED はオレンジ色に点灯し、INPUT1 ~ 3 端子と DIGITAL IN 端子は使用できません。

! お使いのアプリケーションによっては、入力されたオーディオ信号をそのまま出力する場合があります。その場合、「TRACK DOWN」に設定するとオーディオ信号が発振し、耳を傷めたり再生機器を損傷したりする場合がありますので、「TRACK DOWN」は選択しないでください。

- ⑭ MIDI OUT(ミディアウト) 端子
MIDI 機器へ MIDI 信号を送信する端子です。MIDI ケーブルを使用して、MIDI 機器の MIDI IN 端子と接続します。

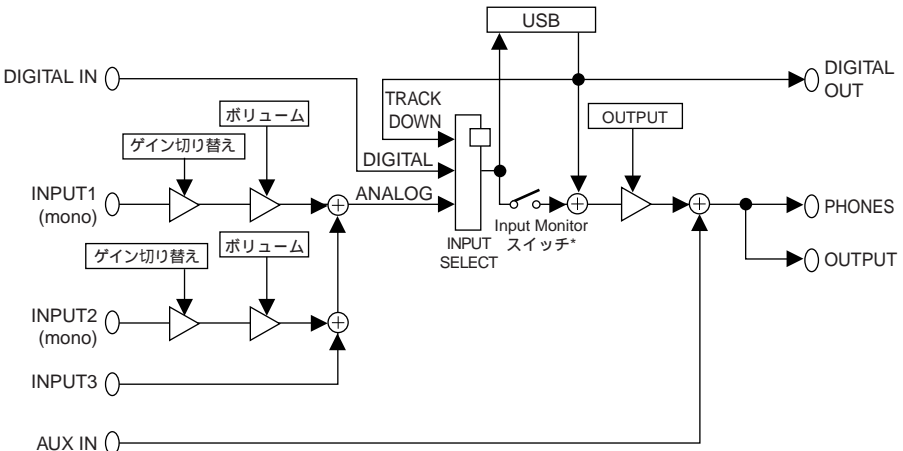
- ⑮ MIDI IN(ミディイン) 端子
MIDI 機器からの MIDI 信号を受信する端子です。MIDI ケーブルを使用して、MIDI 機器の MIDI OUT 端子と接続します。

- ⑯ TO TG(トゥーティージー) 端子
MIDI 機器の TO HOST 端子と接続する端子です。接続にはシリアルケーブル YAMAHA CCJ-MAC または CCJ-TG(市販品の場合は、両端が MINI DIN 8 ピンのクロスケーブル) をご使用ください。

(NOTE) このとき、MIDI 機器の HOST SELECT スイッチは、お使いのコンピュータに関わらず、「PC-1」または「Mac」に設定します。

- ⑰ USB(ユーエスピー) 端子
USB ケーブルでコンピュータや USB ハブと接続する端子です。

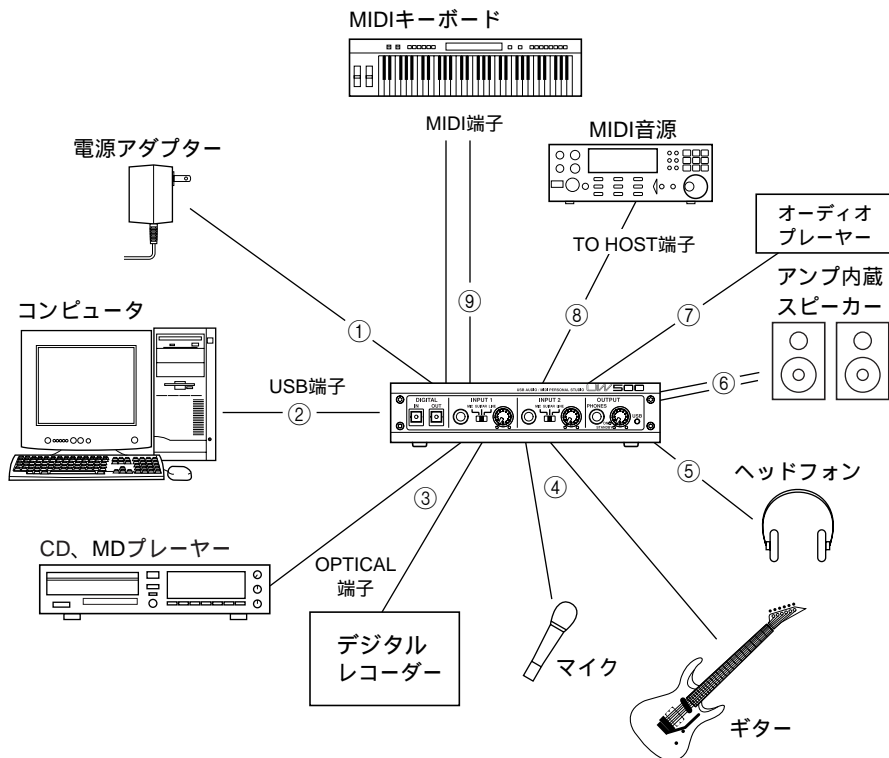
オーディオ信号の流れ



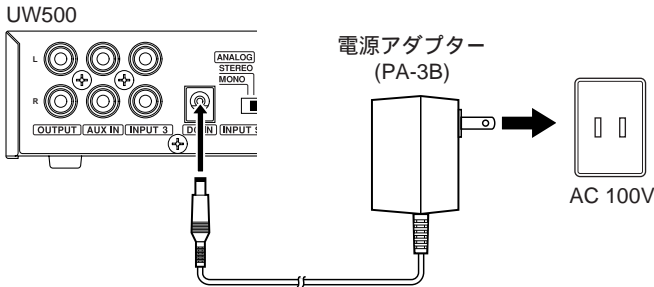
*ASIOドライバのコントロールパネルから操作できます。

接続について

ここでは、UW500 を使って、スピーカーやマイクなどのオーディオ機器や、音源やキーボードなどの MIDI 機器とコンピュータを接続する方法を説明します。



(1) 電源アダプターの接続



1. UW500 の OUTPUT つまみをオフ (スタンバイ) にします。
2. 同梱の電源アダプター (PA-3B) のプラグを本体リアパネルの DC IN 端子に接続します。
3. 電源アダプターをコンセント (AC 100V) に接続します。

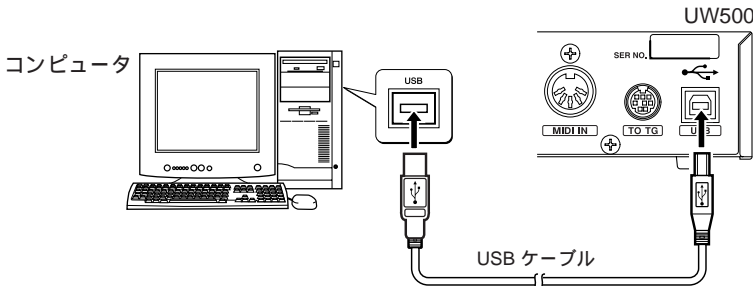
! 電源アダプターは必ず付属の PA-3B をお使いください。電流、電圧や極性の違う電源アダプターを使用すると故障の原因となります。また、長時間ご使用にならない場合は必ずコンセントから外してください。

(NOTE) コンピュータと UW500 が正しく接続されている状態で、電源を入れてください。

(2) コンピュータとの接続

コンピュータの USB 端子と UW500 の USB 端子を USB ケーブルで接続します。このとき、UW500 の電源は必ず切っておいてください。

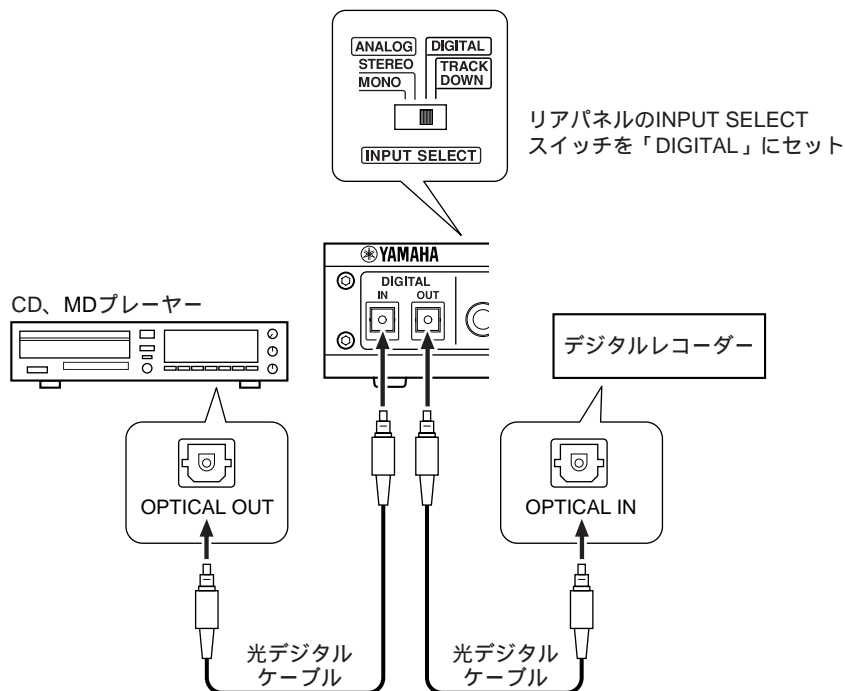
(NOTE) ただし、コンピュータの電源を切っておく必要はありません。



(3) デジタルオーディオ機器との接続

デジタルオーディオ機器（録音用）を DIGITAL OUT 端子に接続します。また、デジタルオーディオ機器（再生用）を DIGITAL IN 端子に接続します。接続には光デジタルケーブル（角型プラグ）を使用します。

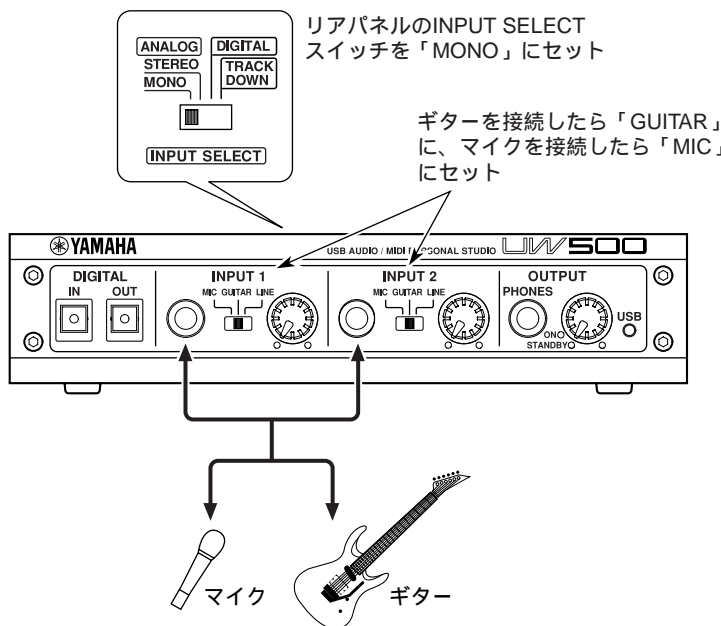
(NOTE) DIGITAL IN 端子を使用する場合は、リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「DIGITAL」に設定します。



(4) ギターやマイクとの接続

ギター(またはギター用エフェクター)やマイクを INPUT 1 または 2 端子に接続します。また、INPUT1 または 2 ゲイン切り替えスイッチを「GUITAR」または「MIC」に、リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「MONO」に設定します。

- ❗ ゲイン切り替えスイッチの設定を誤ると、耳を傷めたりオーディオ機器が破損したりします。十分ご注意ください。
- ❗ INPUT1/2 端子にケーブルを接続するときは、必ず INPUT1/2 つまみを最小に絞ってから行なってください。



(5) ヘッドフォンとの接続

ヘッドフォンのステレオ標準プラグを UW500 の PHONES 端子に接続します。ヘッドフォンの音量は、OUTPUT つまみで調節します。

接続について

(6) スピーカーとの接続

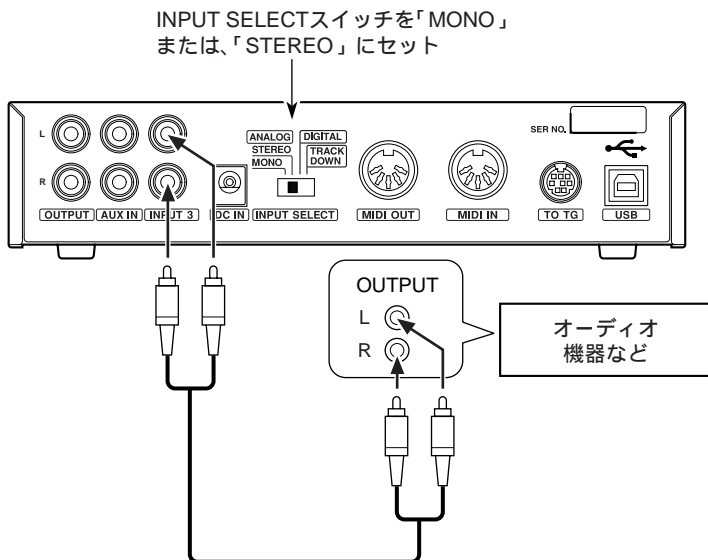
アンプ内蔵スピーカーを UW500 の OUTPUT 端子 (RCA ピン L/R 端子) に接続します。接続する機器にあったケーブルをご用意ください。

- ❗ スピーカーの電源を切った上で接続してください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず UW500 とスピーカーのボリュームを最小にしてください。

(7) オーディオ機器との接続

CD プレーヤーなどのオーディオ機器を INPUT 3 端子 (RCA ピン L/R 端子) に接続します。リアパネルの INPUT SELECT スイッチは「MONO」または「STEREO」に設定します。また、コンピュータを通さずに直接 OUTPUT 端子や PHONES 端子から出力したい場合は、AUX IN 端子に接続します。接続する機器にあったケーブルをご用意ください。

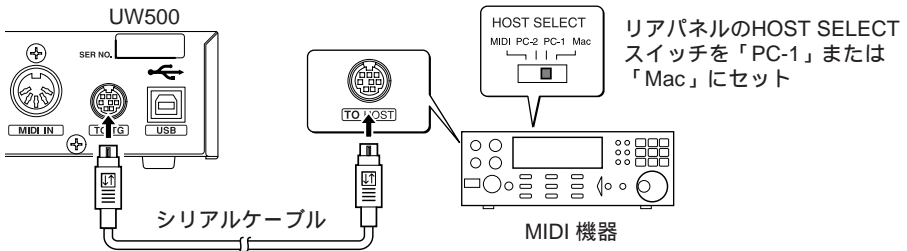
(NOTE) MU2000 などの MIDI 音源の OUTPUT 端子 (RCA ピン L/R 端子) を接続することもできます。



(8) TO TG 端子と MIDI 機器との接続

MIDI機器のTO HOST 端子とUW500のTO TG 端子をシリアルケーブルYAMAHA CCJ-MAC または CCJ-TG(市販品の場合は、両端が MINI DIN 8 ピンのクロスケーブル) で接続します。このとき、MIDI 機器の HOST SELECT スイッチは、お使いのコンピュータにかかわらず「PC-1」または「Mac」に設定します。TO TG 端子で接続すると、MIDI OUT が 5 ポート、MIDI IN が 1 ポートのマルチポートとして音源をコントロールすることができます。

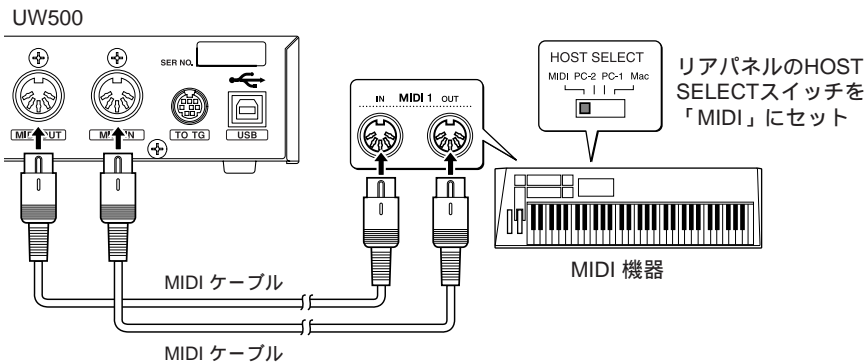
(NOTE) UW500 の入出力端子とポート番号の関係については、P.91 をご覧ください。



(9) MIDI 端子と MIDI 機器との接続

MIDI 機器の MIDI IN 端子と UW500 の MIDI OUT 端子を別売の MIDI ケーブルで接続します。同様に MIDI 機器の MIDI OUT 端子と UW500 の MIDI IN 端子を接続します。このとき、MIDI 機器の HOST SELECT スイッチは「MIDI」に設定します。

(NOTE) UW500 の入出力端子とポート番号の関係については、P.91 をご覧ください。



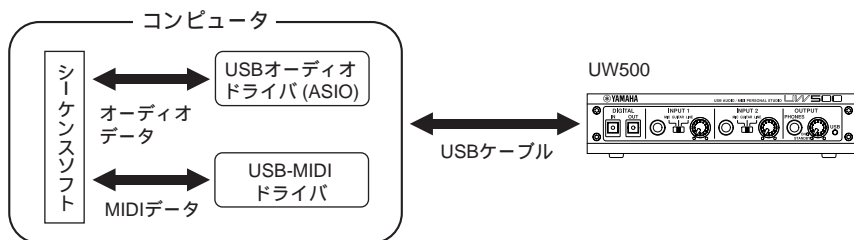
ドライバのインストール

UW500 を実際に使用するためには、コンピュータにドライバを正しくインストールする必要があります。

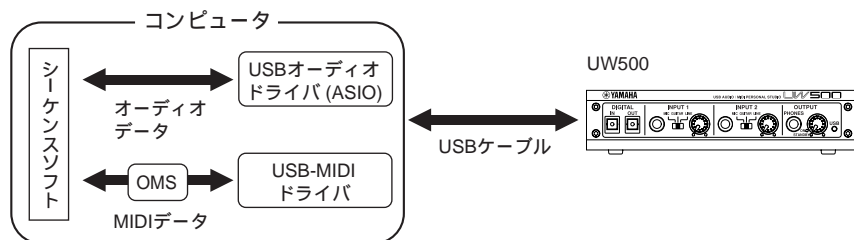
USB-MIDI ドライバは、シーケンスソフトから USB ケーブルを通じて、UW500 に MIDI 信号を送信したり、逆に UW500 からシーケンスソフトに MIDI 信号を送信したりするためのソフトウェアです。また、Macintosh をお使いの場合は、USB-MIDI ドライバとは別に、OMS(P.14) もインストールする必要があります。

USB オーディオドライバは、同様に USB ケーブルを通じてオーディオ信号を送受信するためのソフトウェアです。OS 標準の USB オーディオドライバ以外にも、同梱の ASIO ドライバをインストールして使用することができます。

Windows の場合



Macintosh の場合



(NOTE) アプリケーションや使っていないウィンドウをすべて閉じておいてください。また、ネットワーク接続やインターネット接続を切っておいてください。

(NOTE) UW500 の USB 端子以外の各端子に接続されている機器をすべて外しておきます。

(NOTE) UW500 以外の USB 機器をすべて外しておくことをおすすめします。また、USBハブを使わずコンピュータの USB 端子に直接接続することをおすすめします。

(NOTE) Windows の場合、お使いの CD-ROM ドライブのドライブ名 (D:, E:, Q: など) をあらかじめご確認ください。ドライブ名は「マイコンピュータ」の中の CD-ROM アイコンの下に表示されています。

Windows98/98SE をお使いの場合 P.30

WindowsMe をお使いの場合 P.34

Windows2000/XP をお使いの場合 P.36

Macintosh をお使いの場合 P.43

ASIO ドライバについて

オーディオドライバには、OS 標準のドライバと ASIO ドライバの 2 種類があります。以下のように、用途に合わせてお使いください。

OS 標準ドライバ

SQ01 を操作しながら、付属の S-YXG50 や TWEplus を同時に使用することができます。発音遅れ (レイテンシー) が長いので、オーディオ信号に SQ01 のエフェクトをかけて聞くような用途にはあまり向きません。

ASIO ドライバ

SQ01 をはじめ、Cubase や Logic などの ASIO 対応シーケンスソフトウェアで使うことができます。付属の S-YXG50 や TWEplus を同時に使う場合は、一部のモードに限られます (*1)。

発音遅れ (レイテンシー) が短いので、UW500 に入力したオーディオ信号に SQ01 のエフェクトをかけて聞く (ソフトスルー) ことができます。また、ハードウェアによる発音遅れの少ないモニター (ダイレクトモニター) に切り替えることもできます。

Windows			Macintosh		
	標準ドライバ (MMEドライバ)	ASIO ドライバ		標準ドライバ (Sound Manager)	ASIO ドライバ
SQ01			XGworks		
Cubase/Logic	*2		Cubase/Logic	*2	
TWEplus		*1	TWEplus		×
S-YXG50		*1	S-YXG50		×

*1 ASIO のコントロールパネルの System Performance で Normal+MME を選択している場合のみ、ASIO 対応シーケンスソフトウェアと同時に使用できます。この場合、出力デバイスとして「AudioDevice on USB Bus」を選択します。

*2 お使いのシーケンスソフトウェアに付属の取扱説明書をご参照ください。

ASIO ドライバをインストールする場合は、次ページからの OS 標準ドライバをインストールした後、以下のページをお読みください。

Windows をお使いの場合 P.79

Macintosh をお使いの場合 P.86

Windows

Windows98/98SE へのインストール

以下の手順で 3 つのドライバ (USB 互換デバイス、USB-MIDI ドライバ、USB オーディオデバイス) をインストールします。

1. コンピュータを起動します。
2. UW500 の電源がスタンバイ (オフ) の状態になっていることを確認して、付属の USB ケーブルでコンピュータと UW500 を接続します。
3. UW500 の電源をオンにすると、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が自動的に表示されます。



4. [次へ] をクリックします。検索方法を選択する画面が表示されます。



5. 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。ドライバのインストール元を選択する画面が表示されます。



6. CD-ROM ドライブに付属の CD-ROM を挿入します。CD-ROM が検出されるのを確認後、「検索場所の指定」にチェックを入れます。

また、[参照] ボタンをクリックして、CD-ROM ドライブの「USBdrv_」フォルダ（D:¥USBdrv_¥ など）を指定します。[次へ] をクリックします。

(NOTE) お使いのコンピュータによって、ドライブ名（D:、E:、Q: など）は異なります。

7. ドライバを検出し、インストールの準備が終わると、次の画面が表示されます。「USB 互換デバイス」が表示されていることを確認後、[次へ] をクリックします。インストールが始まります。

(NOTE) ドライバのインストール中に Windows の CD-ROM を要求してくる場合があります。CD-ROM ドライブに Windows の CD-ROM を挿入して、読み込み先として CD-ROM ドライブの適切なフォルダ（D:¥Win98¥ など）を指定してインストールを続行してください。ただし、お使いのコンピュータによって、ドライブ名、フォルダ名は異なります。



ドライバのインストール

8. インストールが終わると、次の画面が表示されます。[完了]をクリックします。

(NOTE) コンピュータによっては、インストール終了後この画面が表示されるまでに 10 秒近くかかる場合があります。



9. しばらく待つと、もう一度「新しいハードウェアの追加ウィザード」が自動的に表示されます。上記の手順 3 ~ 8 と同様にして、「YAMAHA USB MIDI Driver」をインストールします。

(NOTE) ドライバの検出中に Windows の CD-ROM を要求してくる場合がありますが、読み込み先として付属の CD-ROM の「USBdrv_」フォルダ (D:¥USBdrv_¥ など) を指定してインストールを続行してください。



10. しばらく待つと、もう一度「新しいハードウェアの追加ウィザード」が自動的に表示されます。上記の手順 3 ～ 8 と同様にして、「USB オーディオデバイス」をインストールします。



11. コンピュータを再起動します。

(NOTE) インストール後 10 秒ほど待って、ハードディスクへのアクセスがなく、マウスポインタが砂時計マークになっていないことを確認してから、再起動してください。

これで、ドライバのインストールは完了しました。

ドライバのインストール

WindowsMe へのインストール

以下の手順でドライバ(USB オーディオデバイス、USB-MIDI ドライバ)をインストールします。

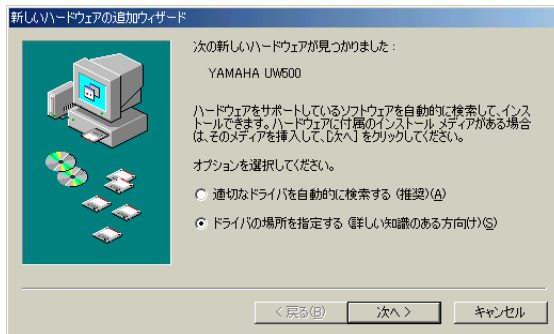
1. コンピュータを起動します。
2. UW500 の電源がスタンバイ (オフ) の状態になっていることを確認して、付属の USB ケーブルでコンピュータと UW500 を接続します。
3. UW500 の電源をオンにすると、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が自動的に表示されます。



4. 「適切なデバイスを自動的に選択する (推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。
5. ドライバの検索、インストールが自動的に完了すると、「新しいハードウェアのインストールが完了しました」と表示されます。[完了] をクリックします。



6. しばらく待つと、もう一度「新しいハードウェアの追加ウィザード」が自動的に表示されます。



7. CD-ROM ドライブに付属の CD-ROM を挿入します。CD-ROM が検出されるのを確認後、「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。
8. 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、「検索場所の指定」を選択します。
[参照] をクリックして CD-ROM ドライブの「USBdrv_」フォルダ(D:¥USBdrv_¥ など)を指定して、[次へ] をクリックします。
9. CD-ROM 中のドライバを検出し、インストールの準備が終わると、「デバイス用のドライバファイルの検索：YAMAHA USB MIDI Driver」と表示されます。
[次へ] をクリックするとインストールが始まります。

(NOTE) ドライバの検出中に Windows の CD-ROM を要求してくる場合がありますが、CD-ROM ドライブの「USBdrv_」フォルダ(D:¥USBdrv_¥ など)を指定してインストールを続行してください。

10. インストールが完了すると、「新しいハードウェアのインストールが完了しました」と表示されます。[完了] をクリックします。

これでドライバのインストールは完了しました。

ドライバのインストール

Windows2000/XP へのインストール

以下の手順でドライバ(USB-MIDIドライバ、USBオーディオデバイス)をインストールします。

(NOTE) 以下のように設定していないと、音切れが発生する場合があります。

[マイコンピュータ] [コントロールパネル] [システム] [詳細設定] パフォーマンスの[設定] [詳細設定]タブで、プロセッサのスケジュールの[バックグラウンドサービス]を選択して、[OK]をクリックしています。さらにシステムのプロパティで[OK]をクリックします。

1. コンピュータを起動して、administrator権限のあるアカウントでWindows2000/XPにログインします。
2. [マイコンピュータ] [コントロールパネル] [システム] [ハードウェア] [ドライバの署名] [ファイルの署名の確認(どのように処理しますか?)]で「無視 - ファイルの署名に関係なく、すべてのファイルをインストールする」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[OK]をクリックします。さらに、システムのプロパティで[OK]をクリックします。
3. CD-ROM ドライブに付属のCD-ROM を挿入します。
4. UW500 の電源がスタンバイ (オフ) の状態になっていることを確認して、付属のUSBケーブルでコンピュータと UW500 を接続します。
5. UW500 の電源をオンにすると、「新しいハードウェアの検索ウィザード」が自動的に表示されます。Windows 2000 をお使いの場合は、[次へ]をクリックします。
6. 「デバイスに最適なドライバを検索する (推奨) (ソフトウェアを自動的にインストールする (推奨))」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ]をクリックします。ドライバのインストール元を選択する画面が表示されます。Windows XP をお使いの場合は、手順 9 に進みます。
7. 「CD-ROM ドライブ」にチェックを入れ、それ以外の項目はすべてチェックを外します。[次へ]をクリックします。

(NOTE) ドライバの検出中に Windows の CD-ROM を要求してくる場合がありますが、読み込み先としてCD-ROM ドライブの「USBdrv2k_」フォルダ(D:¥USBdrv2k_¥など)を指定してインストールを続行してください。

8. 「YAMAHA UW500」のドライバが検出されたことを確認して、[次へ]をクリックします。
9. インストールが終わると、「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されます。[完了]をクリックします。

- Windows の再起動を促すダイアログが表示されるので、[はい] をクリックします。Windows XP をお使いの場合は、コンピュータを再起動すれば完了です。

(NOTE) お使いのコンピュータによっては、インストール終了後のダイアログが表示されるまでに 10 秒以上かかる場合があります。

- 再起動後に「新しいハードウェアが見つかりました」という画面が表示され、USB オーディオドライバが自動的にインストールされます。

この画面が消えれば、ドライバのインストールは完了です。

インストールの確認

以下の手順でドライバが正しくインストールされているかどうかを確認することができます。



- 「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「システム」をダブルクリックして開きます。

(NOTE) WindowsMe/XP をお使いで、「コントロールパネル」の中に「システム」が表示されない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する（クラシック表示に切り替える）」をクリックします。

- 「デバイスマネージャ」のタブをクリックすると、「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の下に「USB オーディオデバイス」と「YAMAHA USB MIDI Driver」の表示を確認することができます。

(NOTE) Windows2000/XP の場合は、「ハードウェア」のタブをクリックしてから「デバイスマネージャ」をクリックします。

(NOTE) Windows XPの場合は、「USB オーディオデバイス」ではなく「YAMAHA UW500」と表示されます。

(NOTE) ASIO ドライバをインストールしてある場合は、「USB オーディオデバイス」ではなく「AudioDevice on USB Bus」と表示されます。

ドライバのインストール

オーディオ / MIDI 信号出力先の設定

ここでは、Windows で UW500 を使うための基本的な設定を行ないます。お使いのアプリケーションでの設定については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

オーディオ再生 / 録音の設定

Windows 98



Windows Me



1. 「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「(サウンドと) マルチメディア」をダブルクリックして開きます。
2. 「オーディオ」のタブをクリックします。
3. 「再生」と「録音」の優先するデバイスで、「USB オーディオデバイス」を選びます。
(NOTE) Windows XP をお使いの場合は、「YAMAHA UW500」を選択します。
(NOTE) お使いのコンピュータによっては、「USB オーディオデバイス (1)」と表示されます。また、USB オーディオ対応機器を複数接続している場合は、(1) 以外の数字になる場合もあります。
4. 「優先するデバイスのみ使う」のチェックボックスにチェックを入れます。
5. Windows Me をお使いの場合は、「音声」タブをクリックして、「音声の再生」と「音声のキャプチャ」も同様に「USB オーディオデバイス」を選択します。
(NOTE) 音声認識、Internet Phoneなどを他のオーディオデバイスで使用している場合、お使いの環境に合わせて設定が必要な場合があります。
6. [OK] をクリックします。

MIDI 出力の設定

Windows 98



Windows Me



1. 「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「(サウンドと) マルチメディア」をダブルクリックして開きます。
2. 「MIDI(オーディオ)」のタブをクリックします。
3. 「MIDI 出力 (MIDI 音楽の再生)」で、接続している音源のポート番号に合わせてドライバ「YAMAHA USB OUT (xx-yy)」を選択します。

(NOTE) xxはデバイス番号、yyはポート番号(P.91)を表しています。ヤマハのUSB機器を一台だけ接続している場合、デバイス番号は 0 となります。
例) YAMAHA USB OUT 0-1、YAMAHA USB OUT 0-2 など

4. [OK] をクリックします。

ドライバのインストール

音楽 CD の設定

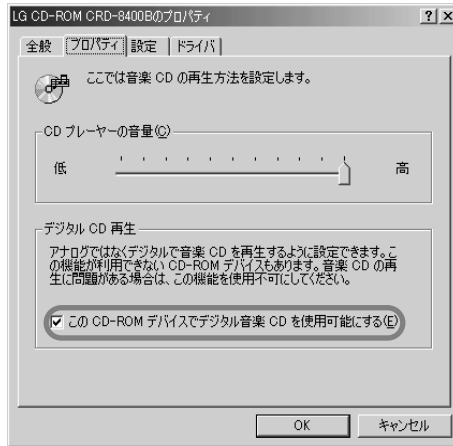
音楽 CD をコンピュータの CD-ROM ドライブで再生して UW500 からデジタルのまま出力するためには、以下の設定を行います。

[Windows98 の場合]



1. 「マイコンピュータ」 「コントロールパネル」 「マルチメディア」をダブルクリックして開きます。
2. 「音楽 CD」タブをクリックします。
3. 使用するCD-ROMドライブ(D:など)が正しく表示されていることを確認します。
4. 「この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。

[WindowsMe/2000/XP の場合]



1. 「マイコンピュータ」 「コントロールパネル」 「システム」をダブルクリックして開きます。
2. 「デバイスマネージャ」 「CD-ROM」(+ の部分) お使いの CD-ROM のドライバ名を選択し、[プロパティ] をクリックします。
(NOTE) Windows2000/XP の場合は、「ハードウェア」タブをクリックしてから「デバイスマネージャ」をクリックします。
3. 「プロパティ」タブをクリックします。
4. 「この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。

ボリュームコントロールの設定

1. 「スタート」メニュー 「プログラム」 「アクセサリ」 「エンターテインメント」 「ボリュームコントロール」を選択します。
2. スライダーを動かして音量を調節します。

ドライバのインストール

ウェーブ再生の確認

以下の手順で、ウェーブファイルの再生音が UW500 から聞こえるかどうかを確認することができます。

Windows 98



Windows Me



1. 「マイコンピュータ」「コントロールパネル」(「サウンドとマルチメディア」)「サウンド」を開きます。
2. スピーカーアイコンがついている項目を選択し、再生ボタンをクリックして UW500 に接続したヘッドフォンなどから再生音が聞こえるかどうか確認します。

Macintosh

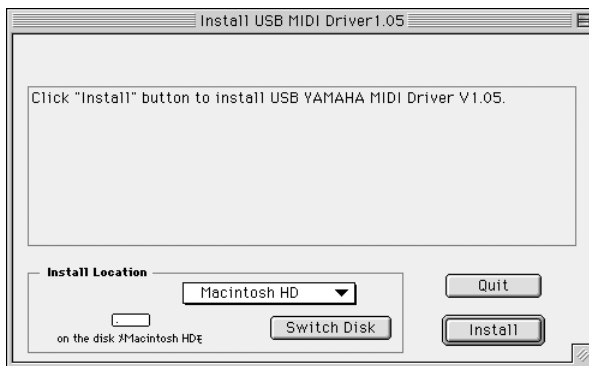
OMS のインストール

1. コンピュータを起動します。
2. CD-ROM ドライブに付属の CD-ROM を挿入します。デスクトップに CD-ROM のアイコンが表示されます。
3. CD-ROM のアイコンをダブルクリックして開き、「OMS_」フォルダの中の「Install OMS 2.3.3J」のアイコンをダブルクリックします。

以下、画面の指示に従ってインストールしてください。OMS のインストールおよび使用方法の詳細については、付属の OMS マニュアル「OMS2.3J_Manual.pdf」をご参照ください。

USB-MIDI ドライバのインストール

1. コンピュータを起動します。
2. CD-ROM ドライブに付属の CD-ROM を挿入します。デスクトップに CD-ROM のアイコンが表示されます。
3. CD-ROM のアイコンをダブルクリックして開き、「USBdrv_」フォルダの中の「Install USB MIDI Driver x.xx」(x.xx には数字が入ります) のアイコンをダブルクリックします。
インストール画面が起動します。



ドライバのインストール

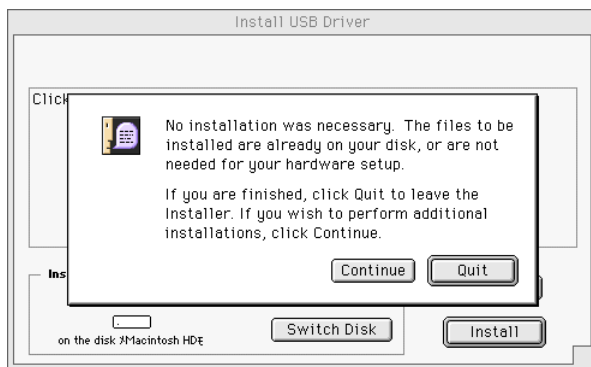
4. 「Install Location」(インストール場所)というボックスに、インストール先が表示されます。インストールするディスクやフォルダを変えたい場合は、[Switch Disk] (ディスク切り替え) やポップアップメニューを使い、インストール先を選択してください。

(NOTE) 通常は起動ディスクが自動的に表示されるので、インストール先を変更する必要はありません。

5. [Install] (インストール) をクリックするとインストールを開始します。他のアプリケーションが動作中の場合、「"Continue" をクリックすると、すべてのアプリケーションが自動的に終了します」という英語のメッセージが表示されます。[Continue] をクリックしてください。

(NOTE) インストールを中止したい場合は、[Cancel] をクリックしてください。

6. インストールが開始されます。インストール先に同じ名前のファイルがある場合、以下のようなメッセージが表示されます。手順 3 にもどる場合は [Continue] を、インストールを終了する場合は [Quit] (終了) をクリックします。



7. インストールが終わると、「インストールは完了しました。コンピュータを再起動する必要があります。」という英語のメッセージが表示されますので、[Restart] (再起動) をクリックしてください。自動的にコンピュータが再起動します。

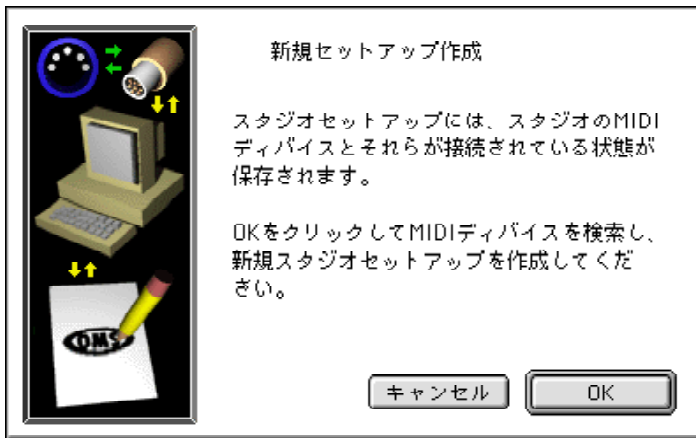
また、以下の場所にそれぞれのファイルがインストールされているのを確認することができます。

「システムフォルダ」: 「コントロールパネル」: 「YAMAHA USB MIDI Patch」
「システムフォルダ」: 「機能拡張」: 「USB YAMAHA MIDI Driver」
「システムフォルダ」: 「OMS Folder」: 「YAMAHA USB MIDI OMS Driver」

OMS のセットアップ

(NOTE) ソフトシンセサイザーも使う場合は、ソフトシンセサイザーをインストールした後に OMS のセットアップを行ないます。

1. コンピュータを起動します。
2. UW500 の電源がスタンバイ（オフ）の状態になっていることを確認して、付属の USB ケーブルで、コンピュータもしくは USB ハブの USB 端子と、UW500 の USB 端子を接続します。
3. UW500 の電源をオンにします。また、本体の USB LED が緑色に点灯していることを確認します。
4. ハードディスクにインストールされた「Opcode」フォルダの中の「OMS アプリケーション」フォルダを開き、「OMS Setup」アイコンをダブルクリックして起動します。
5. Apple Talk ダイアログが表示される場合は、[オフにする] をクリックし、その後に表示されるダイアログで [OK] をクリックします。
6. 新規セットアップ作成ダイアログが表示されます。新規セットアップ作成ダイアログが表示されない場合は、[ファイル] メニューから [新規セットアップ] を選択してください。



ドライバのインストール

7. [OK] をクリックします。OMS ドライバ検索ダイアログが表示されますので、Modem および Printer のチェックボックスをはずして、[検索] をクリックします。



8. 検索終了後、OMS ドライバセットアップダイアログに「USB-MIDI 1」がリストアップされていることを確認して、[OK] をクリックします。

(NOTE) UW500 を正しく検出できなかった場合は、「USB-MIDI 1」が表示されません。ケーブルの接続などを見直し、もう一度最初から作業をやり直してください。

(NOTE) ソフトシンセサイザー-S-YXG50 をインストールしている場合は、「YAMAHA SXG Driver」もリストアップされます。



9. OMS MIDIデバイス設定ダイアログに「USB-MIDI 1」がリストアップされていることと、Port 番号が複数見えていることを確認します。Port 1 から Port 6 の左側のチェックボックスすべてにチェックマークを付けます。

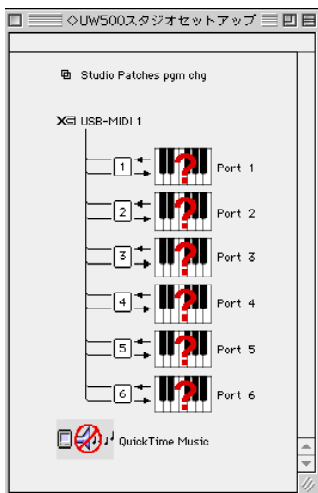


10. すべてのチェックボックスにチェックを付けたら、[OK] をクリックします。
11. 設定ファイルを保存するダイアログが表示されますので、ファイル名を入力して [保存] をクリックします。

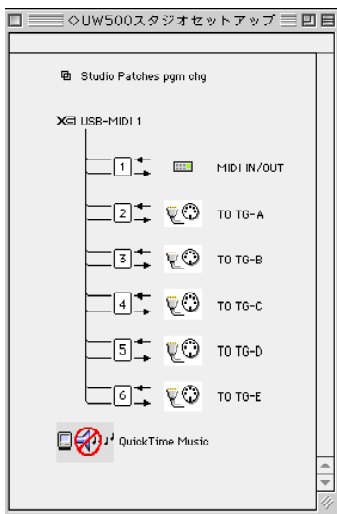


ドライバのインストール

12. ファイルの保存を終了すると、以下のウインドウが表示されます。
ファイル名の先頭に「 」マークが付いていれば、設定完了です。



また、ポートごとに名称およびアイコンを変更すると、以下のようにより見やすいセットアップにすることができます。詳しくは、付属の「OMS2.3J_Manual.pdf」をご参照ください。



これで OMS のセットアップが完了しました。

Sound Manager の設定

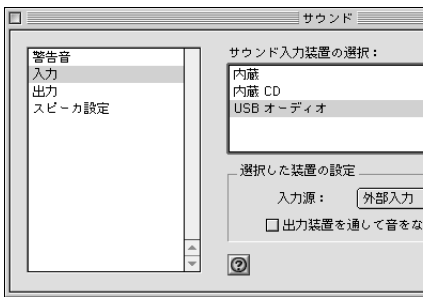
MacOS 標準のオーディオドライバである Sound Manager を使う場合は、以下の手順で設定とウェーブ再生の確認ができます。

ASIO ドライバを使う場合は、P.86 に従ってドライバをインストールしてください。ただし、お使いのアプリケーションが ASIO に対応している必要があります。

1. コンピュータを起動します。
2. 付属の USB ケーブルでコンピュータと UW500 を接続します。
3. 「アップルメニュー」 「コントロールパネル」 「サウンド」を選択します。

(NOTE) お使いの MacOS のバージョンによって、画面は異なります。

MacOS 9.04



MacOS 9.2.2



4. 「入力」のページで、「外部入力」として「USB オーディオ」を選択します。

❗ トラックダウン機能 (P.66) をお使いになる場合、「出力装置を通して音を再生する (ならず)」のチェックは必ず外してください。オーディオ信号が発振し、耳を傷めたり再生機器を損傷したりする危険があります。

(NOTE) ASIO ドライバが機能拡張フォルダにインストールされている場合、「USB オーディオ」は表示されません。この場合は、オーディオドライバの切替方法 (P.89) にしたがって、ドライバを切り替えてください。

5. 「出力」のページで、「内蔵」を選択します。

(NOTE) お使いの Macintosh によっては、「USB オーディオ」も表示される場合があります。その場合は「USB オーディオ」を選択してください。

6. 「警告音」のページでウェーブファイルをクリックし、UW500 に接続したヘッドフォンなどから再生音が聞こえるかどうか確認します。

ドライバのインストール

7. 主音量などのスライダーをドラッグして、音量を調節します。

(NOTE) コンピュータ内蔵のスピーカーから出力したい場合は、UW500 とコンピュータを接続している USB ケーブルを抜いてください。「出力」の「サウンド出力装置の選択」では変更できません。

(NOTE) UW500 とコンピュータを接続した状態でヘッドフォンをお使いなる場合は、UW500 のヘッドフォン端子に接続してください。

デモソングを聞いてみよう

UW500 と付属のシーケンスソフトおよびソフトシンセサイザー S-YXG50 を使って、デモソングを聞いてみましょう。

「Unreal Wave」

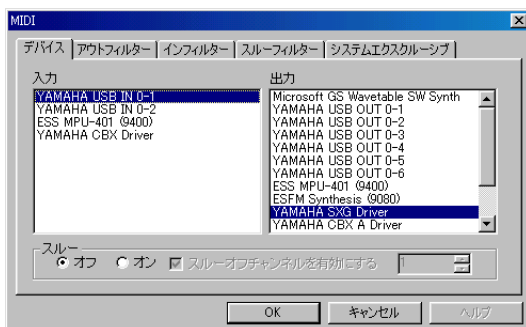
イントロダクション～強烈なスラップベース・ソロ～ 2 本のエレキギターによる白熱のバトル～クールなヒップホップ・ラップ～クロージング ... と劇的に、そしてトリッキーに様々な場面が転回します。躍動感あふれるウエーブ・データとハイクオリティな MIDI データが織り成す絶妙な一体感をご堪能ください。

Produced by 氏家克典（株式会社アイデックス）

E. ギター：手島 Tessy いさむ / E. ベース：入江 Taro 直之 / ボーカル、作詞：ANTHONY F. SHOEMO

Windows

1. ヘッドフォンを PHONES 端子に (P.18)、またはアンプ内蔵スピーカーを OUTPUT 端子に (P.20) 接続します。
! 必ず UW500 の電源を切った状態で接続してください。
2. OUTPUT つまみを ON の位置に回して、UW500 の電源を入れます。
! OUTPUT つまみは最小の位置（ON の表示の真上）に絞っておいてください。
3. [スタート]メニュー [プログラム] [YAMAHA SQ01] [SQ01] を選択して、SQ01 を起動します。
4. [設定]メニュー [MIDI] [デバイス]を選択すると、MIDI ダイアログのデバイスページが表示されます。



デモソングを聞いてみよう

5. 「入力」欄と「出力」欄で、適切なデバイスを選択します。

ソフトシンセサイザーを使う場合は「YAMAHA SXG Driver」を、UW500 の MIDI IN 端子に接続した外部 MIDI 機器を使う場合は「YAMAHA USB OUT 0-1」を、TO TG 端子に接続した外部 MIDI 音源を使う場合は「YAMAHA USB OUT 0-2」を「出力」欄で選択します。[OK] をクリックすると、ダイアログが閉じます。

(NOTE) TO TG 端子に接続したマルチポート音源をお使いの場合は、「YAMAHA USB OUT 0-3 ~ 6」を選択して音源を鳴らすこともできます。

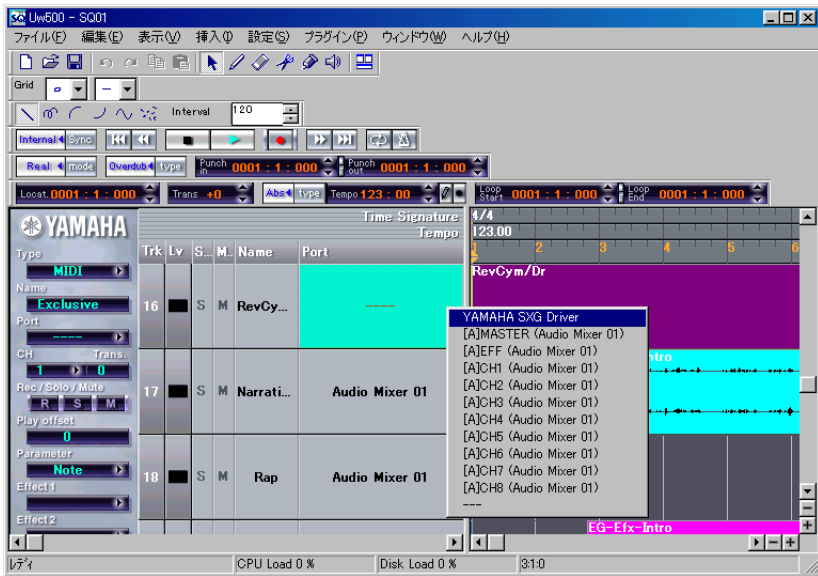
6. [設定] メニュー [オーディオ] [デバイス] を選択すると、オーディオダイアログのデバイスページが表示されます。



7. [MME/DirectSound] ボタンをオンにして「入力デバイス」および「出力デバイス」欄で「USB オーディオデバイス」を選択します。[OK] をクリックすると、ダイアログが閉じます。
8. 付属の CD-ROM からデモソングをハードディスクにコピーします。
付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入して、「マイコンピュータ」の中の CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックして開きます。「Demo」フォルダの中の「UW500.yws」をデスクトップなどにドラッグしてコピーします。

(NOTE) ソフトシンセサイザーをお使いの場合は、[スタート] メニュー [プログラム] [YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50] [S-YXG50 設定] [詳細設定 1 / 2] の設定画面で、「最大発音数」を 32 に、「最大 CPU 使用率」を 40 % に、「ダイレクトサウンド」をオフに設定してください。

9. メニューバーの [ファイル] メニューから [開く] を選択すると、ファイルを開くダイアログが表示されます。ハードディスクにコピーしたデモソング (UW500.yws) を指定して [開く] をクリックすると、トラックビューウィンドウ上にデモソングが表示されます。
10. トラック 1 ~ 16 (MIDI トラック) の Port を選択します。パラメーターセクションのトラック 1 の Port 欄をクリックして、トラック 16 までドラッグしてからマウスボタンを離すとポップアップメニューが表示されます。ポップアップメニューの中から手順 5 で設定した MIDI デバイス名を選択します。



11. トランスポートバーのプレイボタンをクリックするとデモソングの再生が始まります。OUTPUT つまみを使って適当な音量に調節してください。ストップボタンをクリックすると、再生は停止します。

(NOTE) デモソングが正しく再生されない場合は、ソフトシンセサイザーの設定を変更したり、不要なアプリケーションを終了したりしてみてください。ソフトシンセサイザーの音が鳴らない場合は、[スタート] メニュー [プログラム] [YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50] [S-YXG50 設定] [詳細設定 2/2] の設定画面で、「USB オーディオデバイス」を選択してください。



ストップボタン プレイボタン

デモソングを聞いてみよう

MIDI とオーディオの同期設定



音源として S-YXG50 などのソフトシンセサイザーをお使いの場合は、オーディオデータと MIDI データの発音タイミングを調節する必要があります。[設定]メニュー

[オーディオ] [デバイス] を選択すると開くダイアログで、「MIDI 遅延時間」をミリ秒単位のマイナスの値（MIDI の再生を早める）に設定します。ただし、お使いのソフトシンセサイザーやコンピュータの処理能力などにより、適切な設定値は異なります。付属の S-YXG50 をお使いの場合は、- 372 (msec) 程度に設定してみて、まだ MIDI データが遅れて聞こえるときは、さらに小さい値に設定します。MIDI データの方が早く聞こえるときは、値を大きくします。

デモソングを再生している場合は、20 小節目の 1 拍目で MIDI の再生音（sub Drums や E.Piano）とオーディオの再生音（Slap Bass）を基準にして設定することをおすすめします。

メトロノームのクリック音を利用してタイミングを合わせる場合は、[設定]メニュー [メトロノーム] で、「MIDI デバイス」に「YAMAHA SXG Driver」を選択して、「オーディオクリックを出力する」にチェックを付けます。トランスポートバーのメトロノームボタンをオンにして、空のソング（またはすべてのトラックをミュートしたソング）を再生して二つのクリック音（MIDI とオーディオ）を聞き比べて値を設定してください。

Macintosh

1. ヘッドフォンを PHONES 端子に (P.18)、またはアンプ内蔵スピーカーを OUTPUT 端子に (P.20) 接続します。
 必ず UW500 の電源を切った状態で接続してください。
2. OUTPUT つまみを ON の位置に回して、UW500 の電源を入れます。
 OUTPUT つまみは最小の位置（ON の表示の真上）に絞っておいてください。
3. 「XGworks lite V3.0A」フォルダの中の「XGworks」フォルダにある「XGworks Lite J」をダブルクリックして、XGworks を起動します。

4. [設定] メニューから [オーディオセットアップ] を選択すると、オーディオセットアップダイアログが表示されます。「オーディオドライバ」そして「SoundManager」を選択して、[OK] をクリックします。



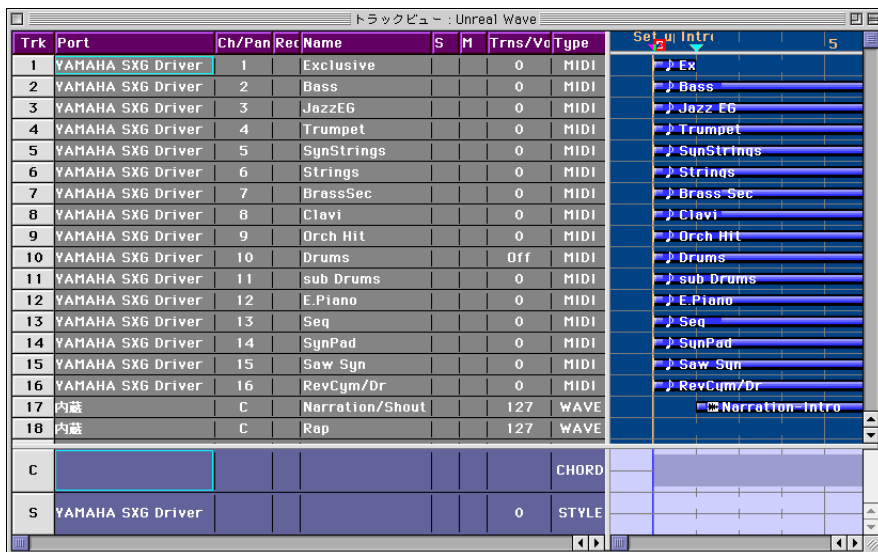
5. [設定] メニューから [システムセットアップ] を選択すると、システムセットアップダイアログの Device ページが表示されます。



6. 「MIDI OUT 1」のボックスをクリックすると表示されるポップアップメニューから、適切なデバイスを選択します。選択するデバイス名は、OMS のセットアップファイル (P.45) により異なります。

デモソングを聞いてみよう

7. 「Wave In」のボックスに「USB オーディオ」、 「Wave Out」のボックスに「内蔵」または「USB オーディオ」を選択します。[OK] をクリックすると、ダイアログボックスが閉じます。
8. 付属の CD-ROM からデモソングをハードディスクにコピーします。
 付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すると、デスクトップに CD-ROM のアイコンが表示されます。
 CD-ROM の「Demo」フォルダの中の「UW500.xws」をデスクトップなどにドラッグして、ハードディスクにコピーします。
9. メニューバーの[ファイル]メニューから[開く]を選択すると、ファイルを開くダイアログが表示されます。ハードディスクにコピーしたデモソング (UW500.xws) を指定して[開く]をクリックすると、トラックビューウィンドウ上にデモソングが表示されます。



10. プレイコントロールのプレイボタンをクリックするとデモソングの再生が始まります。OUTPUT つまみを使って適当な音量に調節してください。ストップボタンをクリックすると、再生は停止します。

(NOTE) デモソングが正しく再生されない場合は、ソフトシンセサイザーの設定を変更したり、不要なアプリケーションを終了したりしてみてください。



MIDI とオーディオの同期設定

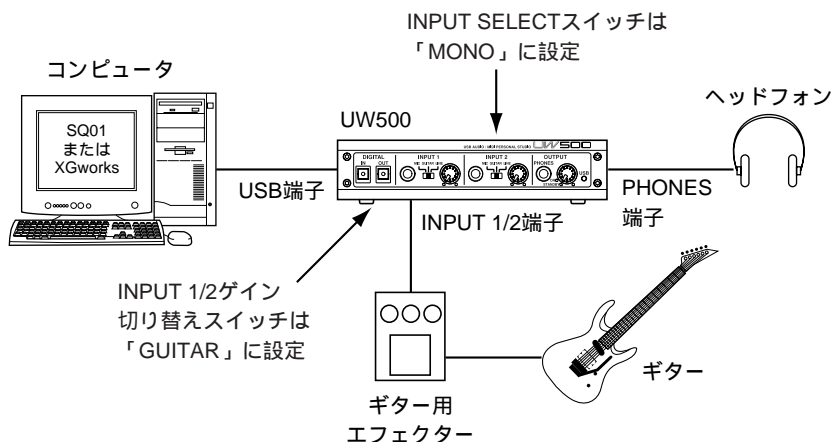
音源として S-YXG50 などのソフトシンセサイザーをお使いの場合は、オーディオデータと MIDI データの発音タイミングを調節する必要があります。[設定]メニュー [オーディオセットアップ] で、「プレイオフセット」をミリ秒単位でマイナスの値 (MIDI 再生を早める) に設定します。ただし、お使いのソフトシンセサイザーやコンピュータの処理能力などにより、適切な設定値は異なります。S-YXG50 をお使いの場合は、- 300msec 程度に設定にしてみて、まだ MIDI データが遅れて聞こえるときは、さらに小さい値に設定します。MIDI データの方が早く聞こえるときは、値を大きくします。

デモソングを再生している場合は、20 小節目の 1 拍目での MIDI 再生音 (sub Drums や E.Piano) とオーディオ再生音 (Slap Bass) を基準にして設定することをおすすめします。

ハードディスクレコーディングにチャレンジ

UW500 と付属のシーケンスソフトとソフトシンセサイザー S-YXG50 を使って、簡単なハードディスクレコーディングにチャレンジしてみましょう。ここでは、ギターの音をシーケンスソフトにデジタルオーディオ録音して、MD などのデジタルレコーダーにデジタル録音するまでの基本的な操作手順を説明します。

ギターのデジタルオーディオ録音



Windows

1. INPUT 1 または 2 端子にギター (またはギター用エフェクター) を接続します。接続にはギター用のシールド (標準プラグ) を使用します。ヘッドフォンを PHONES 端子に (P.18)、またはアンプ内蔵スピーカーを OUTPUT 端子に (P.20) 接続します。音源として、外部 MIDI 音源を使用する場合は、MIDI 音源を MIDI OUT 端子または TO TG 端子に接続します (P.27)。また、AUX IN 端子と MIDI 音源の OUTPUT 端子を接続します。



必ず UW500 の電源を切った状態で接続してください。



ギターの弾き語りやボーカルとギターを別々のウェーブファイルに録音したい場合は、INPUT 1/2 端子にギターとマイクをそれぞれ接続してステレオで録音します。その後、TWEplus を使って別々のモノラルのウェーブファイルに分割することができます。

ハードディスクレコーディングにチャレンジ

2. OUTPUTつまみを ON の位置に回して、UW500 の電源を入れます。



OUTPUTつまみは最小の位置 (ON の表示の真上) に絞っておいてください。

3. INPUT 1/2 ゲイン切り替えスイッチを「GUITAR」に設定します。また、リアパネルの INPUT SELECT スwitchを「MONO」に設定します。

(NOTE)

ステレオ効果のあるエフェクターを INPUT 1 端子と INPUT 2 端子にステレオ接続している場合は、「STEREO」に設定します。

4. SQ01 を起動します。[ファイル] メニューから [開く] を選択し、レコーディングするファイルを開きます。

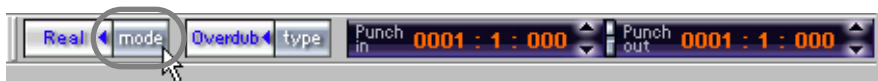
5. [設定] メニュー [MIDI] [デバイス] および、[設定] メニュー [オーディオ] [デバイス] で適切なデバイスを選択します。

(NOTE)

詳しくは、P.51 の手順 4 ~ 7 をご覧ください。

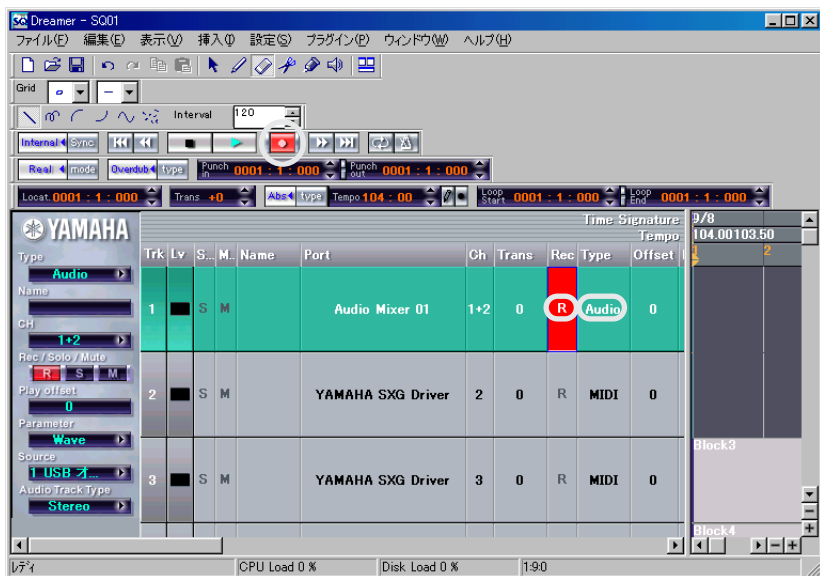
6. [設定] メニュー [オーディオ] [デバイス] で、「サンプリング周波数」を「44.100kHz」に、「レコードビット」を「16」に設定します。

7. レコード設定バーで [mode] ボタンをクリックして、「Real」(リアルタイムレコーディング) を選択します。



ハードディスクレコーディングにチャレンジ

8. トラックビューウィンドウ上で、録音するトラックの Type 表示をクリックして「Audio」を選択します。また、Rec 表示をクリックすると R マークが赤色表示になり、そのトラックが録音可能な状態になります。次に、トランスポートバーのレコードボタンをクリックすると、赤色表示になり、録音スタンバイの状態になります。



9. ギターのボリュームを十分に大きくした状態で、ヘッドフォンで音が歪まないことを確認しながら、INPUT1/2 ボリュームつまみで録音レベルを調節します。また同時に、OUTPUT つまみを操作してヘッドフォンの音量を調節します。

(NOTE) 「ボリュームコントロール」のダイアログ (P.41) で、音量をすべて最大に設定してください。最大に設定しないと、モニターした音と録音した音の音量が異なる場合があります。

10. トランスポートバーのプレイボタンをクリックします。プレイボタンが点灯表示となり、録音が始まります。ソフトシンセサイザーの音を聞きながら、ギターを演奏して録音します。



11. トランスポートバーのストップボタンをクリックすると、録音が終了します。録音をもう一度やり直したい場合は、ツールバーのアンドゥボタンをクリックして、今行なった録音を取り消すことができます。

Macintosh

1. INPUT 1 または 2 端子にギター (またはギター用エフェクター) を接続します。接続にはギター用のシールド (標準プラグ) を使用します。ヘッドフォンを PHONES 端子に (P.18)、またはアンプ内蔵スピーカーを OUTPUT 端子に (P.20) 接続します。音源として、外部 MIDI 音源を使用する場合は、MIDI 音源を MIDI OUT 端子または TO TG 端子に接続します (P.27)。また、AUX IN 端子と MIDI 音源の OUTPUT 端子を接続します。



必ず UW500 の電源を切った状態で接続してください。

(NOTE)

ギターの弾き語りでボーカルとギターを別々のウェーブファイルに録音したい場合は、INPUT 1/2 端子にギターとマイクをそれぞれ接続してステレオで録音します。その後、TWEplus を使って別々のモノラルのウェーブファイルに分割することができます。

2. OUTPUT つまみを ON の位置に回して、UW500 の電源を入れます。



OUTPUT つまみは最小の位置 (ON の表示の真上) に絞っておいてください。

3. INPUT 1/2 ゲイン切り替えスイッチを「GUITAR」に設定します。また、リアパネルの INPUT SELECT スwitch を「MONO」に設定します。

(NOTE)

ステレオ効果のあるエフェクターを INPUT 1 端子と INPUT 2 端子にステレオ接続している場合は、「STEREO」に設定します。

4. XGworks を起動します。
[ファイル]メニューから[開く]を選択し、レコーディングするファイルを開きます。
5. [設定]メニュー [システムセットアップ]の Device ページで適切なデバイスを選択します。

(NOTE)

詳しくは、P.55 の手順 4 ~ 7 をご覧ください。

ハードディスクレコーディングにチャレンジ

6. [Wave Format] のページで、ボックスをクリックすると表れるドロップダウンリストから [44.1kHz, Mono, 16Bit] を選択します。[OK] をクリックして、ダイアログを閉じます。

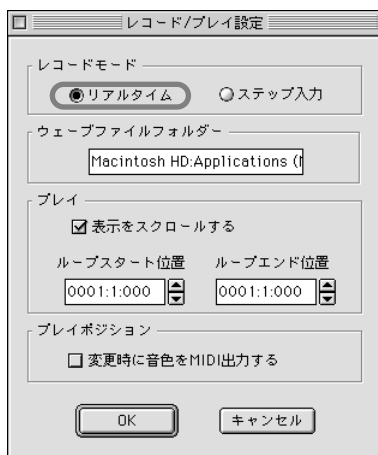
(NOTE) ステレオ効果のあるエフェクターをステレオ接続している場合は、[44.1kHz, Stereo, 16Bit] を選択します。

(NOTE) XGworks では、異なるサンプリング周波数のウェーブファイルを同時に再生することはできません。



ハードディスクレコーディングにチャレンジ

7. [設定]メニュー [レコード / プレイ設定]で、「リアルタイム」を選択して [OK] をクリックします。



8. トラックビューウィンドウ上で、録音するトラックの Type 表示をクリックして「WAVE」を選択します。また、Rec 表示をクリックすると R マークが赤色表示になり、そのトラックが録音可能な状態になります。次に、プレイコントロールのレコードボタンをクリックすると、赤色表示になり、録音スタンバイの状態になります。



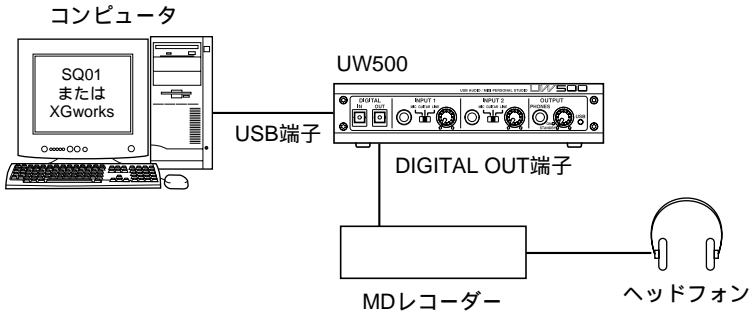
ハードディスクレコーディングにチャレンジ

9. ギターのボリュームを十分に大きくした状態で、ヘッドフォンで音が歪まないことを確認しながら、INPUT1/2 ボリュームつまみで録音レベルを調節します。また同時に、OUTPUT つまみを操作してヘッドフォンの音量を調節します。
10. プレイコントロールのプレイボタンをクリックします。プレイボタンが点灯表示となり、録音が始まります。ソフトシンセサイザーの音を聞きながら、ギターを演奏して録音します。



11. プレイコントロールのストップボタンをクリックすると、録音が終了します。録音をもう一度やり直したい場合は、ツールバーのアンドゥボタンをクリックして、今行なった録音を取り消すことができます。

MD ヘジタル録音



1. MD などのデジタルレコーダーを DIGITAL OUT 端子に接続します。



必ず UW500 の電源を切った状態で接続してください。

(NOTE)

アナログ入力(INPUT1 ~ 3 端子および AUX IN 端子への入力)を DIGITAL OUT 端子に出力することはできません。したがって、外部 MIDI 音源の演奏も同時に録音する場合は、ギターの音と同様に MIDI 音源の音声もあらかじめハードディスクに録音しておく必要があります。

2. OUTPUT つまみを ON の位置に回して、UW500 の電源を入れます。



OUTPUT つまみは最小の位置 (ON 表示の真上) に絞っておいてください。

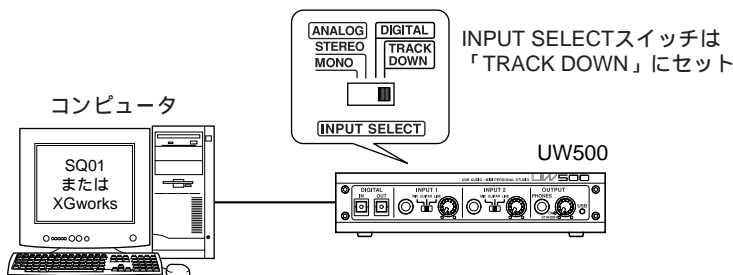
3. MD レコーダーで録音を開始した後、SQ01 または XGworks のプレイボタンをクリックしてソングの再生を開始します。
4. 曲が終了したら、MD の録音を停止します。

ハードディスクレコーディングにチャレンジ

コンピュータ上でトラックダウン

シーケンスソフトと UW500 を使って、複数のウェーブファイルやソフトシンセサイザーの再生音を一つのウェーブファイルにトラックダウンすることができます。また、トラックダウンしたウェーブファイルは、TWEplus を使って MP3 ファイルに変換したり、市販のライティングソフトを使ってオーディオ CD を作成したりすることができます。

(NOTE) TWEplus の使用方法については、TWEplus に付属のオンラインマニュアルをご参照ください。



Windows

(NOTE) ウェーブファイルのみをトラックダウンする場合は、SQ01 のミックスダウン機能を使うこともできます。ミックスダウン機能について詳しくは、SQ01 の[ヘルプ]メニューから起動するオンラインヘルプをご参照ください。

1. リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「TRACK DOWN」に設定します。
2. 録音するトラックの Type 表示をクリックして「Audio」を選択します。また、Rec 表示をクリックすると、R マークがつき、そのトラックが録音可能な状態になります。次に、トランスポートバーのレコードボタンをクリックすると、赤色表示になり、録音スタンバイの状態になります。
3. トランスポートバーのプレイボタンをクリックして、トラックダウンを開始します。
4. ソングが終了したら、ストップボタンをクリックします。
録音したオーディオブロックを選択した状態で [表示] メニュー [リスト] を選択すると、ウェーブファイルの情報を確認することができます。

Macintosh

1. リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「TRACK DOWN」に設定します。
2. 録音するトラックの Type 表示をクリックして「WAVE」を選択します。また、Rec 表示をクリックすると、R マークがつき、そのトラックが録音可能な状態になります。次に、プレイコントロールのレコードボタンをクリックすると、赤色表示になり、録音スタンバイの状態になります。
3. プレイコントロールのプレイボタンをクリックして、トラックダウンを開始します。
4. ソングが終了したら、ストップボタンをクリックします。
録音したウェーブブロックをダブルクリックすると、ウェーブファイルの情報を見ることができます。

サンプルフレーズを使って曲づくりチャレンジ

付属のサンプルフレーズ集(ウェーブファイル)をシーケンスソフト上で編集して、オリジナルソングを作ってみましょう。

(NOTE) シーケンスソフト(SQ01 または XGworks lite V3.0A) の操作について詳しくは、[ヘルプ] メニューから起動するオンラインマニュアルをご参照ください。

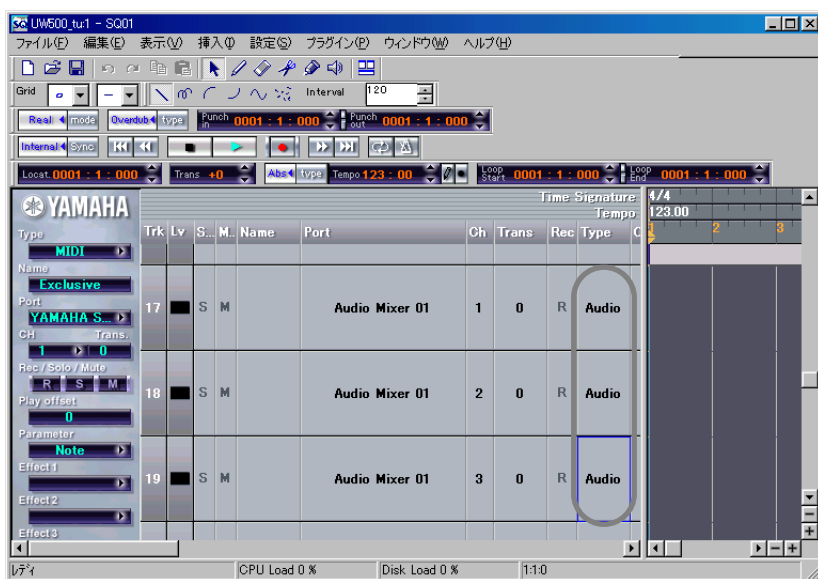
(NOTE) このソングファイルとサンプルフレーズ集は P.51 のデモソングから抜粋したものです。

Windows

1. 付属の CD-ROM からソングファイルとサンプルフレーズ集をハードディスクにコピーします。
付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入して、「マイコンピュータ」の中の CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックして開きます。「Demo」フォルダの中の「Tutorial」フォルダをデスクトップなどにドラッグしてコピーします。
2. SQ01 を起動します。
(NOTE) セットアップについて詳しくは、「デモソングを聞いてみよう」(P.51)の手順 4 ~ 7 をご参照ください。
3. メニューバーの [ファイル] メニューから [開く] を選択すると、ファイルを開くダイアログが表示されます。
4. 「Tutorial」フォルダの中にあるソングファイル「UW500_tu.yws」を選択して [開く] をクリックすると、トラックビューウィンドウ上にソングが表示されます。
(NOTE) このソングファイルには MIDI データだけが含まれています。
5. トラック 1 ~ 16 (MIDI トラック) の Port を選択します。トラック 1 の Port 欄をクリックして、トラック 16 までドラッグしてからマウスボタンを離すとポップアップメニューが表示されます。ポップアップメニューの中から使用するデバイス名を選択します。

サンプルフレーズを使って曲づくりにチャレンジ

6. ウェーブファイルを読み込むトラック（トラック 17 ～ 19）の Type 表示をクリックして「Audio」を選択します。

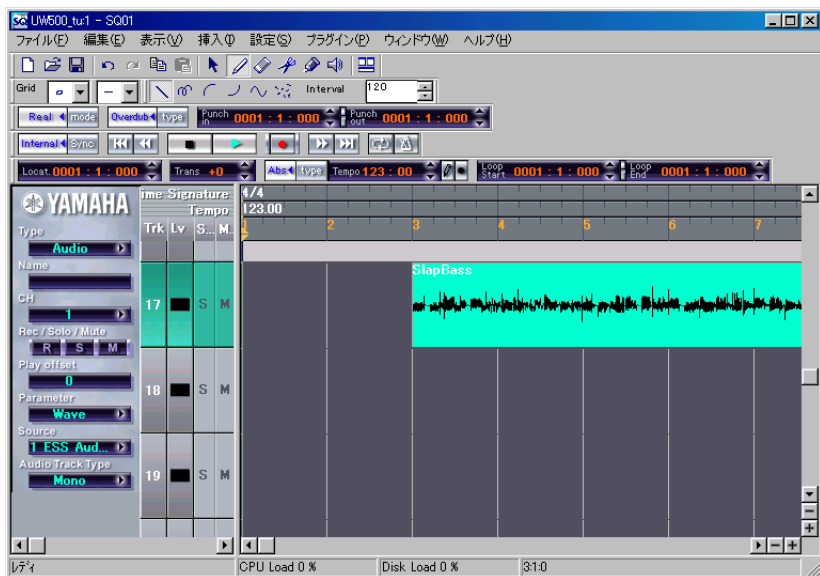


7. ツールバーから鉛筆ツールのアイコンを選択します。

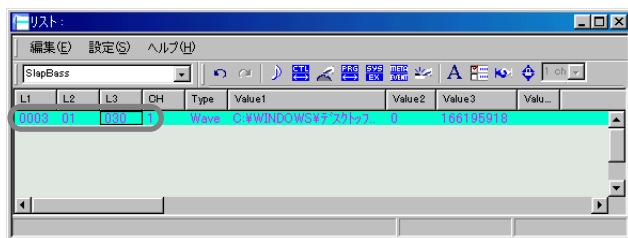


サンプルフレーズを使って曲づくりにチャレンジ

8. 以下の手順で、ベースのウェーブファイルを挿入してみましょう。
トラック 17 の 3 小節目をクリックすると、ファイルを開くダイアログが開きます。「Wave File」フォルダの中にある「SlapBass.wav」を選択して[開く]をクリックすると、トラックビューウィンドウ上にオーディオブロックが表示されます。



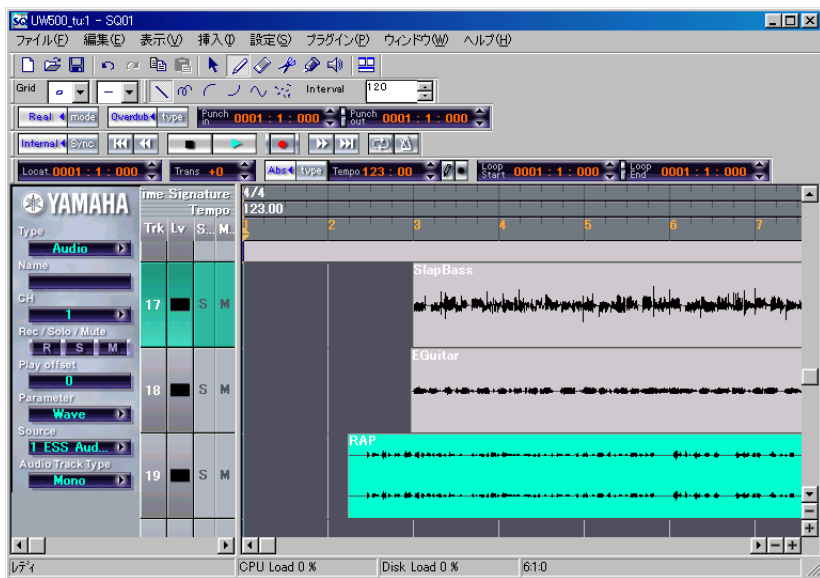
次に、オーディオブロックを選択した状態で[表示]メニューから[リスト]を選択して、リストウィンドウを開きます。L1/L2/L3 (小節 / 拍 / クロック単位) のボックスをそれぞれクリックして、ウェーブファイルの鳴るタイミングを L1=0003、L2=01、L3=030 に設定します。



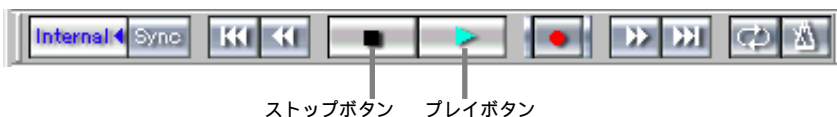
9. 8. と同様の手順で、トラック 18 の 3 小節目にギターのウェーブファイル「EGuitar.wav」を挿入して、ウェーブファイルの鳴るタイミングを L1=0002、L2=04、L3=900 に設定します。

サンプルフレーズを使って曲づくりにチャレンジ

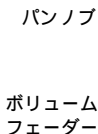
10. 8. と同様の手順で、トラック 19 の 2 小節目にラップのウェーブデータ「RAP.wav」を挿入して、ウェーブファイルの鳴るタイミングを L1=0002、L2=01、L3=920 に設定します。



11. トランスポートバーのプレイボタンをクリックすると、ソングの再生が始まります。ストップボタンをクリックすると、再生は停止します。



12. メニューバーの[表示]メニューから[オーディオミキサー] [AudioMixer01] を選択して、オーディオミキサーを表示します。



- (NOTE)** チャンネル 1 にベース、チャンネル 2 にギター、チャンネル 3 にラップの再生音がアサインされています。

サンプルフレーズを使って曲づくりにチャレンジ

14. オーディオミキサーは、チャンネルモジュール、エフェクトモジュール、マスターモジュールから構成されていて、それぞれにエフェクトを設定することができます。



チャンネルモジュールにエフェクトを設定してみましょう。チャンネルモジュールで設定したエフェクトプラグインは、インサージョンエフェクトと呼ばれ、特定のチャンネルだけに効果をかけることができます。

チャンネル1のエフェクトパネルをマウス右ボタンでクリックして、「COMPRESSOR」を選択します。次に、エフェクトパネルの左側にあるランプをクリックして点灯させると、エフェクト効果がオンになります。

サンプルフレーズを使って曲づくりにチャレンジ



同様の手順で、チャンネル 2 に「DISTORTION/OVERDRIVE」を、チャンネル 3 に「CHORUS」をそれぞれ設定してオンにします。また、エフェクトパネルをダブルクリックしてエフェクトウィンドウを表示すると、エフェクトのパラメーターを細かく設定することもできます。

15. エフェクトモジュールにエフェクトを設定してみましょう。

エフェクトモジュールで設定したエフェクトは、システムエフェクトと呼ばれ、複数のチャンネルに効果を加えることができます。各チャンネルのエフェクト効果の深さは、各チャンネルモジュールのエフェクトセンドノブで設定します。エフェクトモジュールのエフェクトパネルをマウス右ボタンでクリックして、「REVERB」を選択します。次に、エフェクトパネルの左側にあるランプをクリックして点灯させます。

チャンネル 2 のセンドノブをドラッグして右に回して 40 程度に設定します。これでチャンネル 2 にリバーブ効果がかかる状態になりました。同様に、チャンネル 3 のセンドノブを 80 程度に設定します。ソングを再生しながら各チャンネルのセンドノブを左右に回して、リバーブ効果が最適な状態を探してみましょう。



サンプルフレーズを使って曲づくりにチャレンジ

16. マスターモジュールにエフェクトを設定してみましょう。
マスターモジュールで設定したエフェクトプラグインは、最終的なステレオミックスに対する補正的な役割を持ったエフェクトとして機能します。一般的には、トータルコンプやEQ（イコライザー）などをかけるのに使います。
マスターモジュールのエフェクトパネルをマウス右ボタンでクリックして、「3BAND EQ」を選択します。次に、エフェクトパネルの左側にあるランプをクリックして点灯させます。これで、最終的なステレオミックスを補正して低音をブーストする状態になりました。
ソングを再生しながら、各フェーダーやセンドノブを調整して、最適な状態にしましょう。
17. 同様の手順で他のウェーブファイルも組み合わせて、オリジナルソングを作ってみましょう。

(NOTE)

 他のウェーブファイルは、CD-ROMの「Demo」フォルダの中の「Additional Wave」フォルダに収録されています。
18. オリジナルソングが完成したら、[ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択してソングファイルを保存します。

(NOTE)

 ウェーブファイルも含めてセーブするときは、ファイルの種類として「SQ01 File with Wave (*.yws)」を選択してから保存してください。

Macintosh

1. 付属の CD-ROM からソングファイルとサンプルフレーズ集をハードディスクにコピーします。
付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すると、デスクトップに CD-ROM のアイコンが表示されます。CD-ROM の「Demo」フォルダの中の「Tutorial」フォルダをデスクトップなどにドラッグしてコピーします。
2. XGworks を起動します。

(NOTE)

 セットアップについて詳しくは、「デモソングを聞いてみよう」(P.55) の手順 4 ~ 7 をご参照ください。
3. メニューバーの [ファイル] メニューから [開く] を選択すると、ファイルを開くダイアログが表示されます。
4. 「Tutorial」フォルダの中にあるソングファイル「UW500_tu.xws」を選択して [開く] をクリックすると、トラックビューウィンドウ上にソングが表示されます。

(NOTE)

 このソングファイルには MIDI データだけが含まれています。

サンプルフレーズを使って曲づくりにチャレンジ

- トラックビューウィンドウ上で、ウェーブデータを読み込むトラック（トラック 17 ~ 19）の Type 表示をクリックして「WAVE」を選択します。

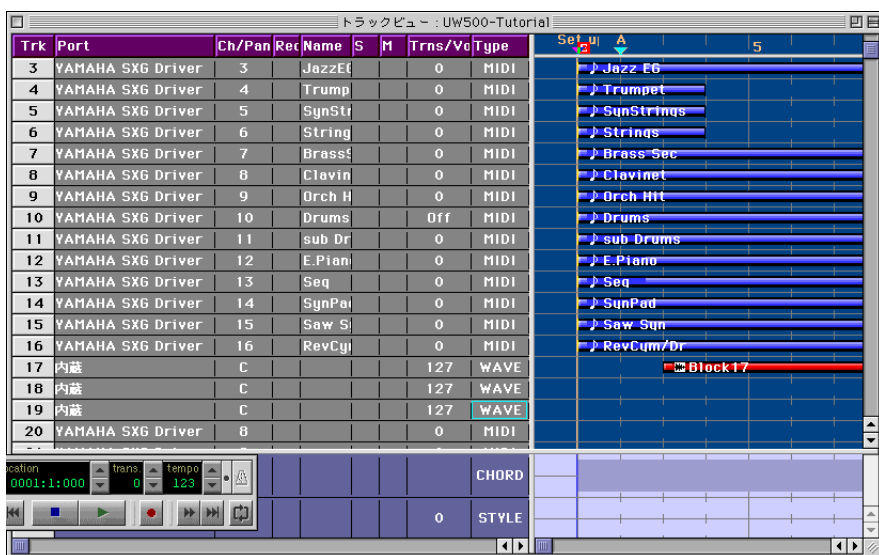


- ツールバーから鉛筆ツールのアイコンを選択します。

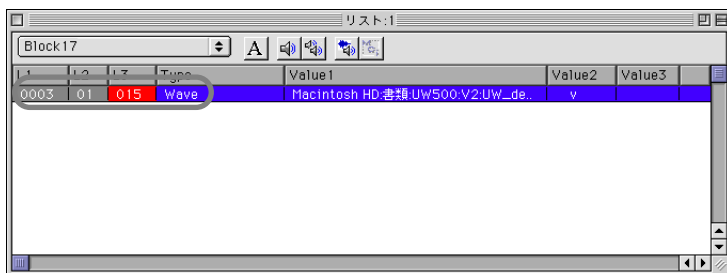


- 以下の手順で、ベースのウェーブデータを挿入します。
トラック 17 の 3 小節目でマウスボタンを押したまま右方向にドラッグしてマウスボタンを離すと、ファイルを開くダイアログが開きます。「Wave File」フォルダの中にある「SlapBass.wav」を選択して [開く] をクリックすると、トラックビューウィンドウ上にウェーブブロックが表示されます。

サンプルフレーズを使って曲づくりにチャレンジ

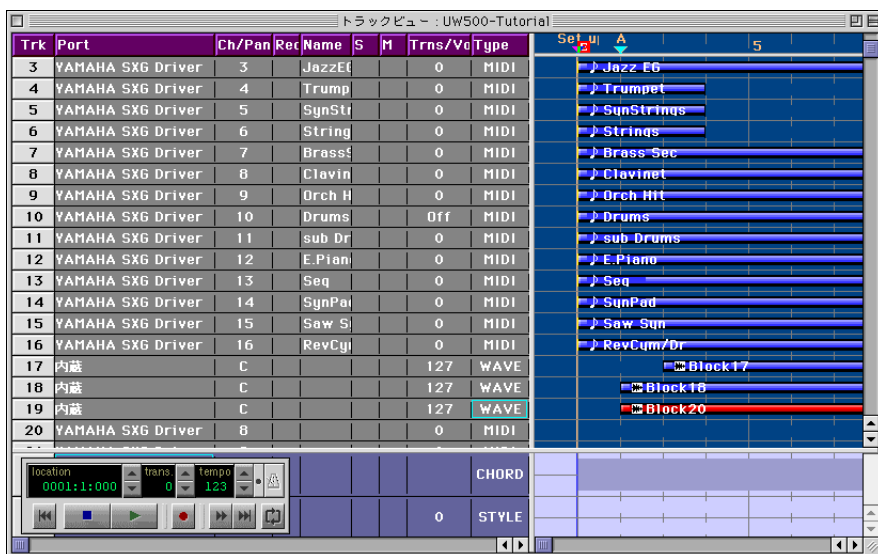


次に、ウェーブブロックをダブルクリックして、リストウィンドウを開きます。L1/L2/L3 (小節 / 拍 / クロック単位) のボックスをそれぞれクリックして、ウェーブファイルの鳴るタイミングを L1=0003、L2=01、L3=015 に設定します。



8. 7. と同様の手順で、トラック 18 の 2 小節目にギターのウェーブファイル「EGuitar.wav」を挿入して、ウェーブファイルの鳴るタイミングを L1=0002、L2=04、L3=450 に設定します。
9. 7. と同様の手順で、トラック 19 の 2 小節目にラップのウェーブファイル「RAP.wav」を挿入して、ウェーブファイルの鳴るタイミングを L1=0002、L2=01、L3=460 に設定します。

サンプルフレーズを使って曲づくりにチャレンジ



10. プレイコントロールのプレイボタンをクリックすると、ソングの再生が始まります。ストップボタンをクリックすると、再生は停止します。



ストップボタン プレイボタン

11. 同様の手順で他のウェーブファイルも組み合わせ、オリジナルソングを作ってみましょう。

(NOTE) 他のウェーブファイルは、CD-ROMの「Demo」フォルダの中の「Additional Wave」フォルダに収録されています。

12. オリジナルソングが完成したら、[ファイル]メニューから[名前を付けて保存]を選択してソングファイルを保存します。

(NOTE) ウェーブファイルも含めてセーブするときは、ファイルの種類として「XGworks Original File with Wave (*.XWS)」を選択してから保存してください。

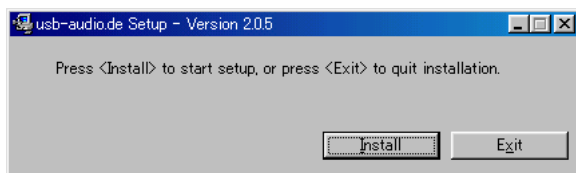
ASIO ドライバのインストール

Windows

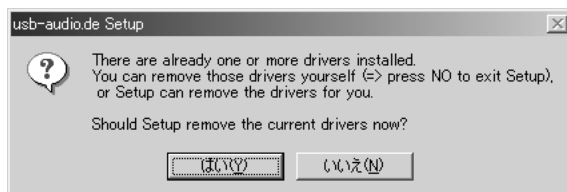
ASIO ドライバのインストール

ASIO ドライバをインストールすることによって、ASIO 対応のアプリケーションで UW500 をお使いいただけるようになります。あらかじめ P.30 に従ってドライバのインストールを完了し、以下の手順で ASIO ドライバをインストールします。

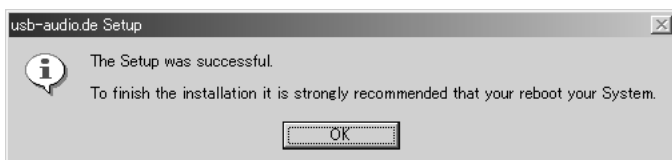
1. UW500 とコンピュータが USB ケーブルで接続されていることを確認して、UW500 の電源をオンにします。
2. CD-ROM ドライブに付属の CD-ROM を挿入します。
3. CD-ROM の「ASIOdrv_」フォルダの中の「Setup.exe」をダブルクリックすると、インストーラが起動します。



4. [Install(インストール)] をクリックします。インストールしない場合は、[Exit (終了)] をクリックしてインストールを中止します。
5. 「今まで使用していたドライバを削除しますか？」というダイアログが表示されます。[はい] をクリックすると、ASIO ドライバのインストールが開始されます。[いいえ] をクリックすると、インストールは中止します。

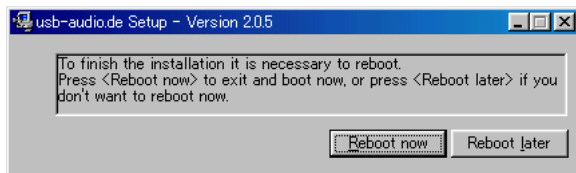


6. 数秒ほどすると、「セットアップは正常に終了しました」というダイアログが表示されます。[OK] をクリックして、ダイアログを閉じます。



ASIO ドライバのインストール

7. 「インストールを有効にするためにはコンピュータを再起動してください」というダイアログが表示されます。[Reboot now]をクリックして、コンピュータを再起動します。

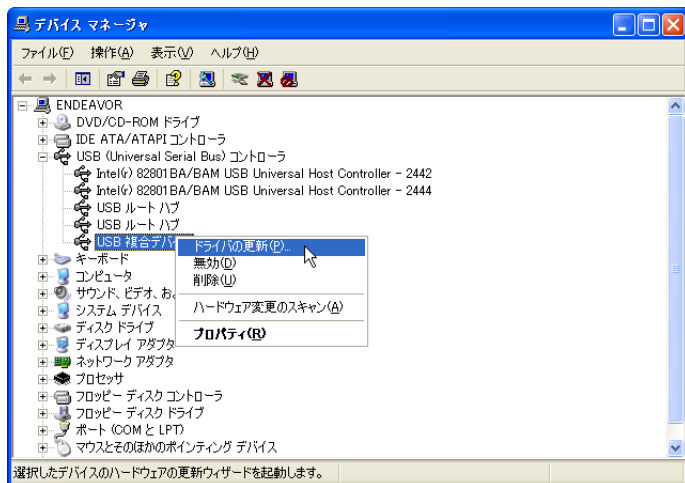


8. お使いのコンピュータによっては、再起動後に「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示され、「次の新しいハードウェアが見つかりました :Audio Device on USB Bus」と表示される場合もあります。その場合は、「適切なドライバを自動的に検索する (推奨)(A)」のチェックボックスをチェックし、[次へ]をクリックします。しばらくすると「新しいハードウェアのインストールが完了しました」と表示されます。[完了]をクリックします。

Windows 98/Me/2000 をお使いの場合は、これで ASIO ドライバのインストールは完了しました。

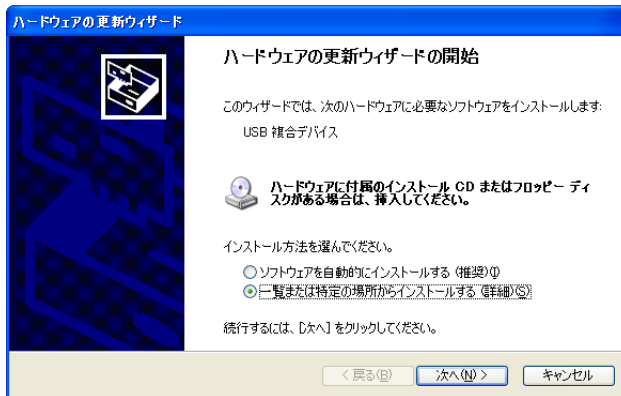
WindowsXP をお使いの場合は、さらに以下の手順にお進みください。

9. 「コントロールパネル」「システム」「ハードウェア」「デバイスマネージャー」をクリックして開きます。
10. 「USB(Universal Serial Bus) コントローラ」の下に「USB 複合デバイス」をマウス右ボタンでクリックすると表示されるポップアップメニューから「ドライバの更新」を選択します。

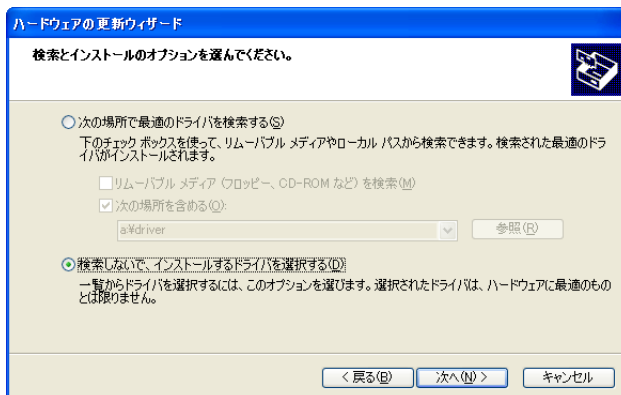


(NOTE) お使いのコンピュータによっては、「USB 複合デバイス」が 2 つ表示される場合があります。手順 13. で「Yamaha UW500」が表示されない場合は、もう一方のデバイスを更新してください。

11. 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。「一覧または特定の場所からインストールする」を選択して、[次へ] をクリックします。

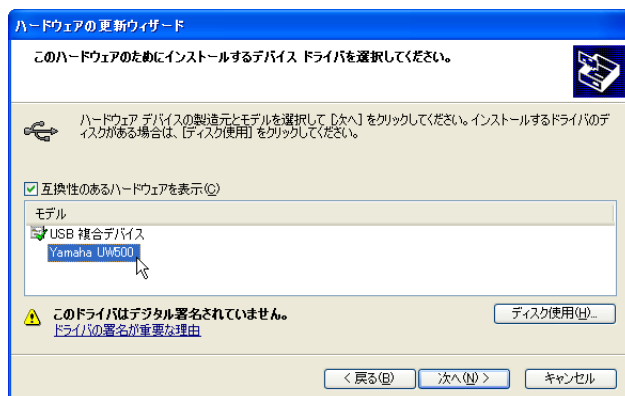


12. 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択して、[次へ] をクリックします。



ASIO ドライバのインストール

13. リストに「Yamaha UW500」が表示されます。「Yamaha UW500」を選択して、[次へ] をクリックします。



14. ドライバの更新が終わると、「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。
15. Windows の再起動を促すダイアログが表示されるので、[はい] をクリックしてコンピュータを再起動します。
16. 再起動後、「AudioDevice on USB Bus」が検出され、「新しいハードウェアの更新ウィザード」が表示されます。「ソフトウェアを自動的にインストールする (推奨)」を選択して、[次へ] をクリックします。「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
17. しばらく待つと、「YAMAHA USB MIDI Driver」が検出され、「新しいハードウェアの更新ウィザード」が表示されます。「ソフトウェアを自動的にインストールする (推奨)」を選択して、[次へ] をクリックします。「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
18. しばらく待つと、Windows の再起動を促すダイアログが表示されるので、[はい] をクリックしてコンピュータを再起動します。

これで、ASIO ドライバのインストールは完了しました。

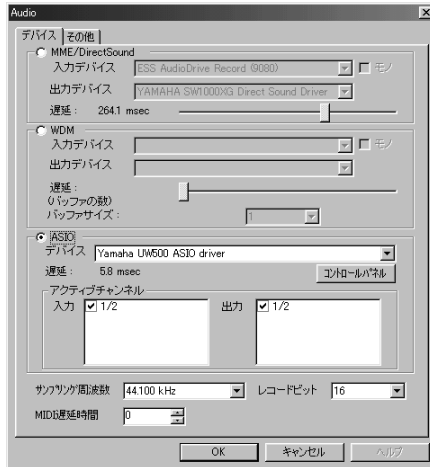
(NOTE) インストールの確認は、P.37 と同様の手順で行います。ただし、「USB オーディオデバイス」ではなく「AudioDevice on USB Bus」と表示されます。

(NOTE) ASIO ドライバを削除する場合は、「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「アプリケーション (プログラム) の追加と削除」で「Yamaha UW500 drivers」を選択して「追加 (変更) と削除」をクリックします。ここから先は画面の指示に従ってください。

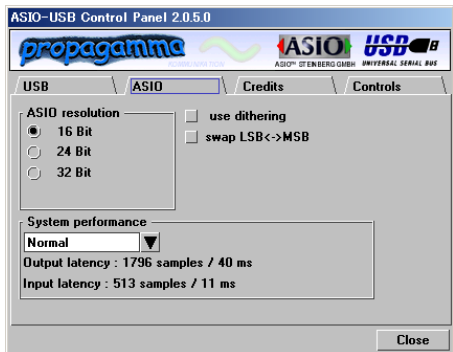
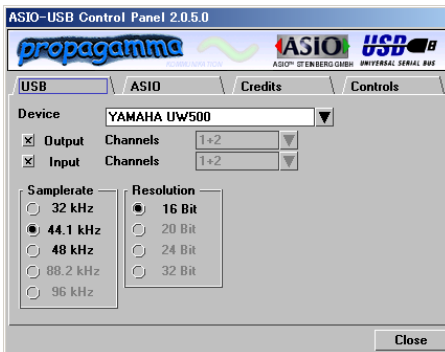
ASIO ドライバの設定

お使いのアプリケーションのオーディオデバイス (ASIO) 設定で、「Yamaha UW500 ASIO driver」を選択します。SQ01 をお使いの場合は、トラックビューウィンドウの [設定] メニュー [オーディオ] [デバイス] で選択します。

(NOTE) このASIOドライバは、ASIOに対応していないアプリケーションでもWindows標準のMMEドライバとしても動作します。MMEドライバとして動作させる場合は、アプリケーションのオーディオデバイス (MME/DirectSound) 設定で「AudioDevice on USB Bus」を選択します。



ドライバ選択ボックスのすぐそばにある [Control Panel(コントロールパネル)] をクリックして、ドライバのコントロールパネルを表示させ、サンプリング周波数やデジザリング、レイテンシーなどの設定を変更することができます。



ASIO ドライバのインストール

Output

出力信号のオン（チェックあり）/ オフ（チェックなし）を切り替えます。

Input

入力信号のオン（チェックあり）/ オフ（チェックなし）を切り替えます。

(NOTE) 通常は両方ともチェックを付けた状態にします。USB 上の信号の帯域を確保したい場合は、チェックを外します。

ASIO resolution

ASIO の分解能を設定します。アプリケーションが録音可能なビット数に設定してください。

Use dithering

ディザリングのオン / オフを設定します。ディザリングとは、元の信号にある種の信号を加え、耳につくノイズを低減する手法です。

Swap LSB<->MSB

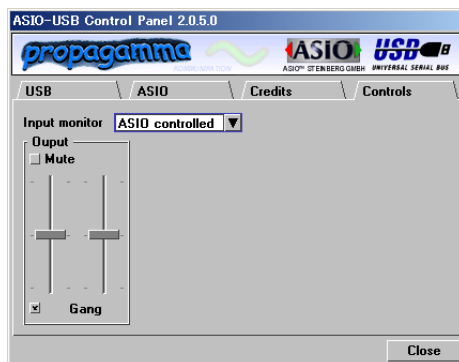
通常はこの設定をオフ（チェックなし）にします。一部のアプリケーションでは、データの順番（LSB と MSB）が逆転してノイズの原因となる場合があります。その場合は、チェックマークを付けてオンにしてください。

System Performance（レイテンシー）

以下の 6 種類から選択することができます。小さい番号のモードほどレイテンシー（発音の遅れ）が短くなります。レイテンシーの設定を長くすると、コンピュータ上での処理（エフェクト処理など）を多く行なってもノイズの発生を抑えることができます。ご使用の状況に合わせてモードを選択してください。

また Normal+MME は、ASIO ドライバと Windows 標準の MME ドライバを同時に使用するためのモードです。SQ01 と TWEplus を同時に使用したい場合などに選択します。

1. Highspeed
2. Rapid
3. Fast
4. Normal
4. Normal + MME
5. Relaxed



Macintosh

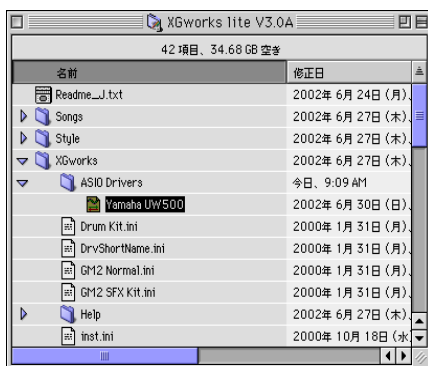
ASIO ドライバのインストール

付属の ASIO ドライバを使用する場合は、以下の手順でインストールしてください。

1. コンピュータを起動します。
2. 付属の USB ケーブルでコンピュータと UW500 を接続します。
3. 同梱 CD-ROM の「ASIOdrv_」フォルダの中の「PGYamahaUW500」を、Macintosh の「システムフォルダ」の「機能拡張」フォルダにコピーします。



4. 同様に「Yamaha UW500」を ASIO 対応アプリケーションの「ASIO Drivers」フォルダにコピーします。



(NOTE) 付属の TWEplus や S-YXG50 は、ASIO に対応しておりません。これらのソフトウェアを使用になる場合は、Sound Manager をご利用ください。また、オーディオドライバの切替方法については、P.89 をご参照ください。

ASIO ドライバのインストール

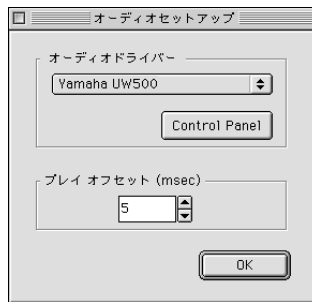
(NOTE) XGworks lite V3.0A for Macintosh をお使いの場合は、「XGworks lite V3.0A」
「XGworks」 「ASIO Drivers」フォルダにコピーします。

以上でドライバのインストールは完了です。

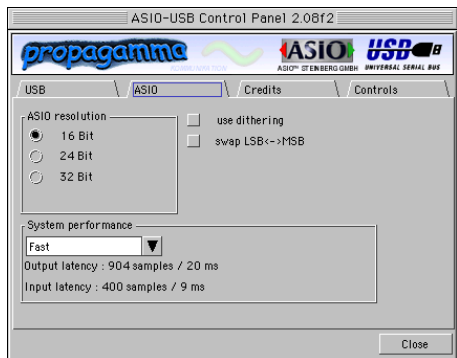
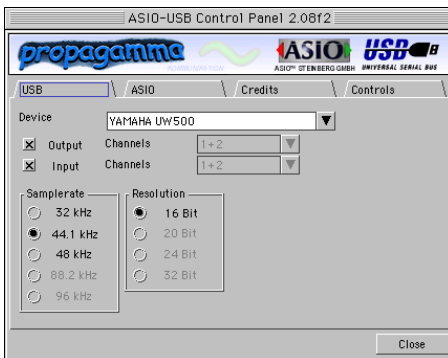
ASIO ドライバの設定

お使いのアプリケーションのオーディオデバイス (ASIO) 設定で、「Yamaha UW500」を選択します。

XGworks lite V3.0A for Macintosh をお使いの場合は、[設定] メニュー [オーディオセットアップ] で選択します。



ドライバ選択ボックスのすぐそばにある [Control Panel (コントロールパネル)] をクリックして、ドライバのコントロールパネルを表示させ、サンプリング周波数やデジザリング、レイテンシーなどの設定を変更することができます。



ASIO ドライバのインストール

Output

出力信号のオン（チェックあり）/ オフ（チェックなし）を切り替えます。

Input

入力信号のオン（チェックあり）/ オフ（チェックなし）を切り替えます。

(NOTE) 通常は両方ともチェックを付けた状態にします。USB 上の信号の帯域を確保したい場合は、チェックを外します。

ASIO resolution

ASIO の分解能を設定します。アプリケーションが録音可能なビット数に設定してください。

Use dithering

ディザリングのオン / オフを設定します。ディザリングとは、元の信号にある種の信号を加え、耳につくノイズを低減する手法です。

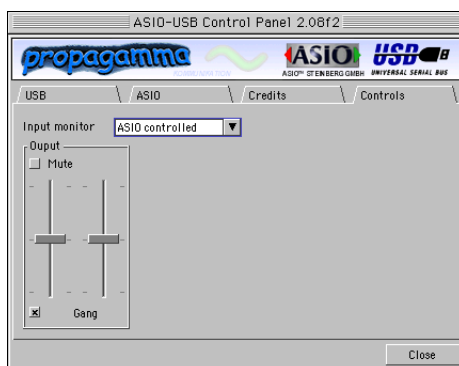
Swap LSB<->MSB

通常はこの設定をオフ（チェックなし）にします。一部のアプリケーションでは、データの順番（LSB と MSB）が逆転してノイズの原因となる場合があります。その場合は、チェックマークを付けてオンにしてください。

System Performance（レイテンシー）

以下の 5 種類から選択することができます。小さい番号のモードほどレイテンシー（発音の遅れ）が短くなります。レイテンシーの設定を長くすると、コンピュータ上での処理（エフェクト処理など）を多く行なってもノイズの発生を抑えることができます。ご使用の状況に合わせてモードを選択してください。

1. Highspeed
2. Rapid
3. Fast
4. Normal
5. Relaxed



Input Monitor

On: UW500 に入力されたオーディオ信号をそのまま OUTPUT 端子へ出力します。レイテンシーなしで入力音をモニターできます。

Off: UW500 に入力されたオーディオ信号を OUTPUT 端子へは出力しません。ASIO2.0に対応していないアプリケーションでエフェクトをかけてモニターする場合は、このモードを選択します。

ASIO controlled: Cubase などの ASIO2.0 に対応したアプリケーションから Input Monitor を切り替えるためのモードです。

Output

UW500 では動作しません。

オーディオドライバの切替方法

MacOS でオーディオドライバを切り替えるには、以下のようにしてください。ASIO アプリケーションでの切替は、お使いのアプリケーションによって異なります。



1. 「アップルメニュー」 「コントロールパネル」 「機能拡張マネージャ」を選択します。
2. ASIO ドライバを使用する場合は、「PGYamahaUW500」の左側のチェックボックスをチェックします。Sound Manager を使用する場合は、チェックをはずします。
3. コンピュータを再起動すると、切替が有効になります。

付属ソフトウェアの設定について

付属ソフトウェアを UW500 と使用するためには、以下のようにデバイスを選択してください。

Windows

ウェーブエディター TWEplus

メニューバーの [Options] メニュー [Windows Sound Device Configuration] で、以下のように設定します。

Input: 「USB オーディオデバイス」または「AudioDevice on USB Bus」

Output: 「USB オーディオデバイス」または「AudioDevice on USB Bus」



ソフトシンセサイザー S-YXG50 および XGplayer

[スタート] メニュー [プログラム] [YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50] [SYXG50 設定] [詳細設定 2/2] で、以下のように設定します。

「USB オーディオデバイス」または「AudioDevice on USB Bus」

Macintosh

ソフトシンセサイザー S-YXG50 および XGplayer

メニューバーの [MIDI] メニュー [OMS ポート設定] で、MIDI Out A に OMS セットアップで設定したデバイス名を選択し、[出力する] にチェックマークを付けます。

ドライバの設定変更（MIDI パッチ画面）

必要に応じて、コンピュータ側で選択するポート番号と UW500 の MIDI 入出力端子の関係を変更することができます。

シーケンスソフトなどの MIDI アプリケーションは、USB-MIDI ドライバを通じて UW500 と MIDI 信号の送受信を行なっています (P.28)。UW500 は MIDI IN/OUT 端子と TO TG 端子を持っており、使用する UW500 の入出力端子はコンピュータ側 (シーケンスソフト上) で選択します。このとき、ドライバの設定を変更することにより、ケーブルをつなぎ変えることなく、これらの関係を変更することができます。

例えば、複数のポートに同じ MIDI 信号を送信したり、複数のポートから一つのポートへ MIDI 信号を重ねて送信したりすることができます。また、MIDI IN から MIDI OUT へ直接 MIDI 信号を出力することもできます。

ポート番号と入出力端子の関係は、以下のようになっています。また初期設定では、これらのポート番号とコンピュータ側のポート番号が一致しています。

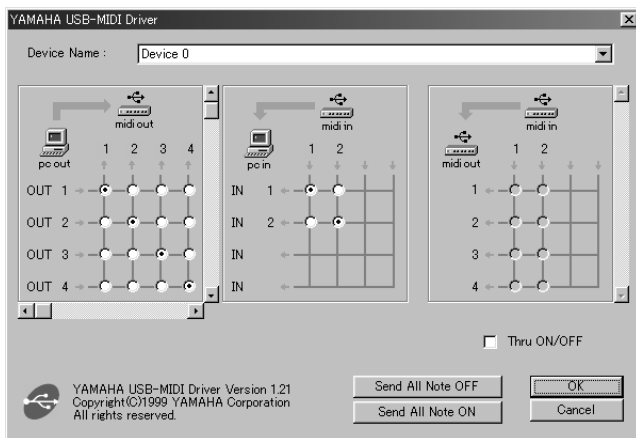
ポート番号	MIDI 出力端子	MIDI 入力端子
ポート 1	MIDI OUT	MIDI IN
ポート 2	TO TG -A	TO TG
ポート 3	TO TG -B	-
ポート 4	TO TG -C	-
ポート 5	TO TG -D	-
ポート 6	TO TG -E	-

(NOTE) TO TG 端子に接続したお使いの MIDI 音源がマルチポートに対応してない場合は、B ~ E ポートを選択しても無効になります。

ドライバの設定変更（MIDI パッチ画面）

MIDI パッチ画面の起動

Windows



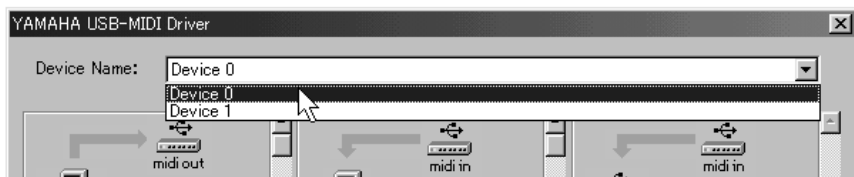
1. 「マイコンピュータ」の中の「コントロールパネル」をダブルクリックして開きます。
2. 「MIDI-USB Driver」をダブルクリックして起動します。

Macintosh

「アップルメニュー」から「コントロールパネル」の中の「YAMAHA USB MIDI Patch」を選択すると起動します。

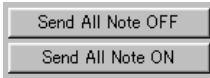
デバイス番号の変更

複数のヤマハの USB 対応機器を接続している場合は、必要に応じてデバイス番号を変更できます。「Device Name」の表示をクリックすると、ドロップダウンリストが表示されるので、設定を変更したいデバイスを選択します。



信号送信の確認

MIDI 機器が正しく接続されているかを確認するために、MIDI 信号を送信することができます。



ノートオフメッセージ

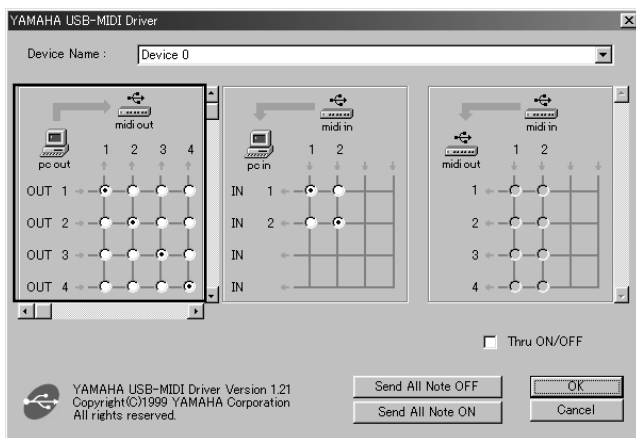
[Send All Note OFF] をクリックすると、UW500 の全てのポートにオールノートオフの MIDI 信号が送信されます。

ノートオンメッセージ

[Send All Note ON] をクリックすると、UW500 の全てのポートにノートオンの MIDI 信号が送信されます。

ドライバの設定変更 (MIDI パッチ画面)

再生時の接続の変更 (PC OUT MIDI OUT)



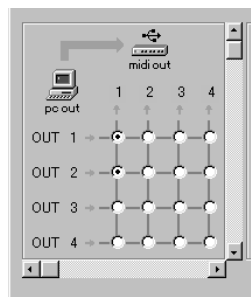
コンピュータの出力ポートから UW500 の出力ポートへの入出力関係を変更することができます。

左側の OUT1 ~ 6 がコンピュータの出力ポートを、上側の 1 ~ 6 が UW500 の出力ポートを表しています。初期設定では、それぞれ同じ番号どうしが接続されていますが、チェックボックスにチェックを入れることにより、変更することができます。縦方向に複数のチェックをつけた場合は、コンピュータの複数の出力ポートからの MIDI 信号を重ねて (マージ)、UW500 の一つの出力ポートに送信します。横方向に複数のチェックをつけた場合は、コンピュータの一つの出力ポートからの MIDI 信号を、UW500 の複数の出力ポートに送信します。

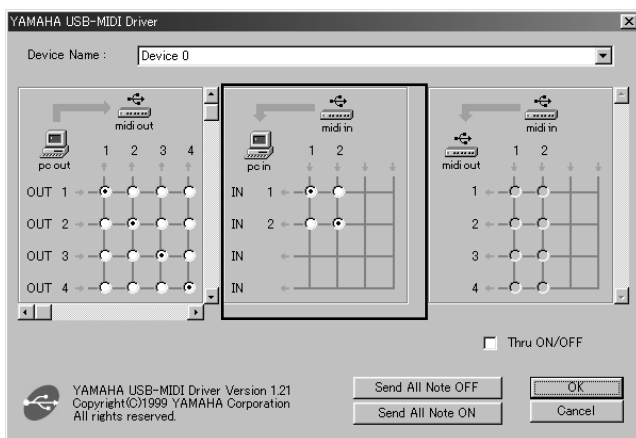
(NOTE) UW500 の入出力端子とポート番号の関係については、P.91 をご覧ください。

コンピュータの出力ポート 1 と 2 からの MIDI 信号を、UW500 の MIDI OUT1 (MIDI OUT 端子) に出力する場合

図のようにチェックを変更し、[OK] をクリックして設定を有効にします。



録音時の接続の変更 (MIDI IN PC IN)



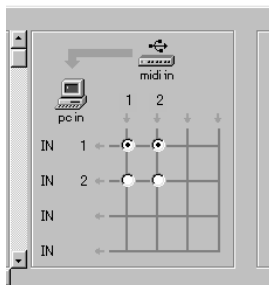
UW500 の入力ポートからコンピュータの入力ポートへの入出力関係を変更することができます。左側の IN 1 と 2 がコンピュータの入力ポートを、上側の 1 と 2 が UW500 の入力ポートを表しています。初期設定では、それぞれ同じ番号どうしが接続されていますが、チェックボックスにチェックを入れることにより、変更することができます。

縦方向に複数のチェックをつけた場合は、UW500 の一つの入力ポートからの MIDI 信号を、コンピュータの複数の入力ポートに送信します。横方向に複数のチェックをつけた場合は、UW500 の複数の入力ポートからの MIDI 信号を重ねて (マージ)、コンピュータの一つの入力ポートに送信します。

(NOTE) UW500 の入出力端子とポート番号の関係については、P.91 をご覧ください。

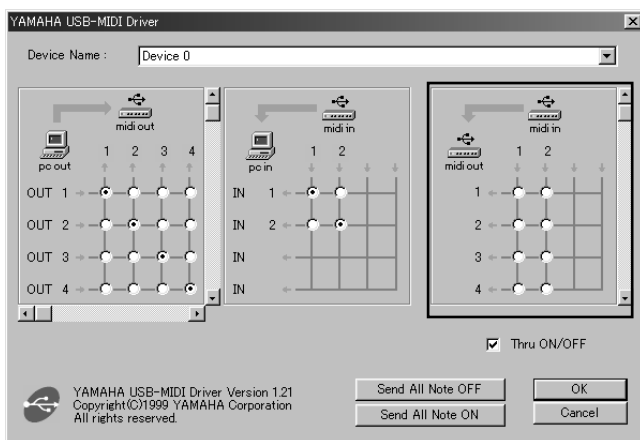
UW500 の MIDI IN1 (MIDI IN 端子)、MIDI IN2 (TO TG 端子) からの MIDI 信号を、コンピュータの入力ポート 1 に入力する場合

図のようにチェックを変更し、[OK] をクリックして設定を有効にします。



ドライバの設定変更 (MIDI パッチ画面)

MIDI 信号のスルー (MIDI IN MIDI OUT)



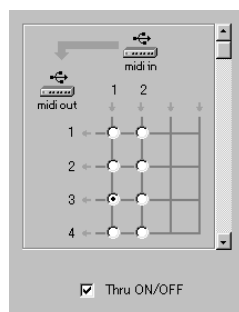
UW500 の入力ポートで受信する MIDI 信号を、UW500 の出力ポートへ直接出力 (スルー) することができます。MIDI キーボードなどからの MIDI 信号を直接音源に出力したい場合などに便利です。左側の IN 1 ~ 6 が UW500 の出力ポートを、上側の 1 と 2 が UW500 の入力ポートを表しています。またこの機能を有効にするには、画面右下の「Thru ON/OFF」にチェックを入れます。

縦方向に複数のチェックをつけた場合は、UW500 の一つの入力ポートからの MIDI 信号を、UW500 の複数の入力ポートに送信します。横方向に複数のチェックをつけた場合は、UW500 の複数の入力ポートからの MIDI 信号を重ねて (マージ)、UW500 の一つの入力ポートに送信します。

(NOTE) UW500 の入出力端子とポート番号の関係については、P.91 をご覧ください。

MIDI IN1 (MIDI IN 端子) への入力を MIDI OUT3 (TO TG 端子の B ポート) へスルーする場合

画面右下の「Thru ON/OFF」にチェックを入れます。
図のようにチェックを入れ、[OK] をクリックして設定を有効にします。



仕様

オ - ディオ録音再生チャンネル数

録音 ステレオまたはモノラル 1 系統
再生 ステレオ 1 系統

信号処理	AD 変換	20bit
	DA 変換	20bit
接続端子	サンプリング周波数	32kHz、44.1kHz、48kHz
	ヘッドフォン (標準ジャック) 端子	
	マイク / ギター / ライン入力 (標準ジャック) 端子 × 2	
	デジタル入力 (光角型プラグ) 端子	
	デジタル出力 (光角型プラグ) 端子	
	ライン入力 (RCA ピン L/R) 端子	
	AUX 入力 (RCA ピン L/R) 端子	
	ライン出力 (RCA ピン L/R) 端子	
	MIDI IN 端子 (16ch)	
	MIDI OUT 端子 (16ch)	
	TO TG 端子 (MIDI 出力 80ch、MIDI 入力 16ch)	
電源	USB 端子	
	DC IN 端子	
電源	電源アダプター (PA-3B)	
外形寸法	200(W) × 158(D) × 47(H) [mm]	
質量	800g	
別売品	シリアルケーブル YAMAHA CCJ-MAC 光デジタルケーブル (角型プラグ)	

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

故障かな？と思ったら (Q&A)

■ ドライバがインストールできない

- ・ USB ケーブルは正しく接続されていますか？
 - USB ケーブルの接続を確認してください (P.23)。
 - 一度 USB ケーブルを抜いて、再度挿入してください。
- ・ (Windows の場合) お使いのコンピュータ側で USB が使用可能になっていますか？
 - 初めて UW500 をコンピュータに接続した際、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が自動的に表示されないときは、コンピュータ側で USB を使用しない設定になっている場合があります。以下の方法で確認できます。
 1. [コントロールパネル] [システム] ([ハードウェア]) [デバイス マネージャ] を開きます。
 2. 「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」や、その下にある「USB ルート ハブ」などに「！」や「×」のマークがついていないことを確認してください。「USB ルート ハブ」などに「！」や「×」のマークがついている場合は、USB が使用できない設定になっています。詳細については、お使いのコンピュータの取扱説明書をご参照ください。
- ・ (Windows の場合) 不明なデバイスが登録されていませんか？
 - 何らかの原因によりドライバのインストールに失敗すると、UW500 が「不明なデバイス」として認識されてしまいます。以降インストールができなくなる場合がありますので、以下の手順で「不明なデバイス」を削除してください。
 1. [コントロールパネル] [システム] ([ハードウェア]) [デバイス マネージャ] を開きます。
 2. 「種類別に表示」にチェックが入った状態で、「その他のデバイス」がないか確認します。
 3. 「その他のデバイス」がある場合、ダブルクリックして、その下に「不明なデバイス」があれば、選択して [削除] ボタンをクリックします。
 4. USB ケーブルを UW500 から抜いて、接続し直します。
(NOTE) このとき、UW500 の電源は切っておいてください。
 5. 以下、ドライバをインストールし直します。
- ・ USB ハブをお使いではありませんか？
 - UW500 をコンピュータに直接接続してインストールを試してください。また、USB ポートが複数ある場合は、他の USB ポートもお試しく下さい。
- ・ 他の USB 機器が接続されていませんか？
 - 他の USB 機器が有効になっている時にインストールできない場合があります。プリンターやスキャナーなどの機器をはずしてからお試しください。
 - 他の USB 機器をお使いで一部のドライバが既にインストールされている場合、そのドライバのインストールが飛ばされることがあります。その場合も問題なくご使用いただけます。

■ UW500 が正常に動作しない、または音が鳴らない

- ・ ドライバはインストールしましたか (P.28) ?
- ・ USB ケーブル、MIDI ケーブルやオーディオケーブルなどは正しく接続されていますか (P.22) ?
- ・ 音源、オーディオ機器、アプリケーション、OS などの音量設定は上がっていますか ?
- ・ お使いのアプリケーションで適切なポートを選択していますか ?
- ・ (ASIO ドライバをお使いの場合) お使いのアプリケーションは ASIO ドライバに対応していますか ?
 - 付属の TWEplus や S-YXG50 は、ASIO ドライバに対応しておりません。ただし、Windows 版の ASIO ドライバをお使いの場合は、ASIO のコントロールパネルで Normal+MME モードを選択した場合のみ、標準ドライバを使用して TWEplus や S-YXG50 を再生することができます (P.84)。
- ・ (Windows で S-YXG50 をお使いの場合) ソフトシンセサイザーの設定は適切ですか ?
 - ソフトシンセサイザーをインストールし直したために音が鳴らなくなった場合は、以下の設定を確認してください。[スタート] メニュー [プログラム] [YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50] [S-YXG50 設定] [詳細設定 2/2] の設定画面で、適切なデバイスを選択し直してください。
- ・ サンプリング周波数の設定は適切ですか ?
 - P.17 の表を参照
- ・ サンプリング周波数やビット数の異なるウェーブファイルが混在していませんか ?
 - お使いのオーディオアプリケーションによって、サンプリング周波数やビット数の異なるウェーブファイルを同時には再生できない場合があります。
- ・ 音源の HOST SELECT スイッチは正しく設定されていますか ?
 - MIDI IN/OUT 端子と接続している場合は「MIDI」に、TO TG 端子と接続している場合は、「PC-1」または「Mac」に設定してください。
- ・ 他の USB 機器を使用していないですか ?
 - 他の USB 機器も接続している場合は、ヤマハの USB 機器だけを接続して問題がないか確認してください。
- ・ ドライバは最新のものをインストールしましたか ?
 - 巻末に記載されているヤマハホームページから最新のドライバをダウンロードできます。
- ・ (Windows で音楽 CD を再生できない場合)
 - 「この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする」にチェックを入れてください (P.40)。
- ・ (MD や CD プレーヤーからのデジタル入力がない場合)
 - INPUT SELECT スイッチは正しく設定されていますか (P.20) ?

故障かな？と思ったら (Q&A)

■ 音が途切れる、または歪む

- ・ お使いのコンピュータは推奨環境を満たしていますか (P.16) ?
- ・ 他のアプリケーションやデバイスドライバや USB デバイス (スキャナ、プリンタなど) は動作していませんか？
→ 不要なアプリケーションなどは終了してください。
- ・ ウェーブの録音と再生を同時に行なっていませんか？
→ ウェーブの録音と再生を同時に行なうと、お使いのコンピュータによっては、再生音が途切れ、ノイズが聞こえることがあります。
- ・ 複数のウェーブファイルを再生していませんか？
→ 複数のウェーブファイルを同時に再生すると、お使いのコンピュータの能力によっては、再生音が途切れたりすることがあります。
- ・ 数分にわたるオーディオデータの録音 / 再生をしていませんか？
→ Windows の場合、お使いのコンピュータによっては、オーディオデータの処理速度や外部記憶装置へのアクセスなどのさまざまな要因により、処理能力が低下する場合があります。その場合、以下のように設定を変更することで改善できる場合もあります。

[コントロールパネル] [(サウンドと)マルチメディア] [オーディオ] [詳細プロパティ]

ハードウェア アクセラレータ: 最大
サンプルレート変換の質: 標準

[コントロールパネル] [システム] ([ハードウェア])(デバイスマネージャ)
[ディスクドライブ] または [ハードディスクコントローラ]
高速に使用するモードに設定 (DMA モードをオンにするなど)
高速なドライバにアップデート

(NOTE) ドライバのアップデートについては、ハードディスクメーカーのホームページなどでご確認ください。

[コントロールパネル] [システム] ([詳細])(パフォーマンス]

(NOTE) コンピュータについて詳しい知識のある方以外、この設定は変更しないことをおすすめします。

ファイルシステムが適正に設定されているかなどをご確認ください。また、空きメモリが十分 (128MB 以上) あり、録音再生するウェーブファイルがそれほど大きくない場合、仮想メモリの設定を変更することで改善できる場合もあります。

その他、お使いのコンピュータによっては、ハードディスクコントローラなどのデバイスドライバや BIOS などのアップデートが必要な場合があります。詳しくは、お使いのコンピュータのサポート窓口やホームページなどでご確認ください。

- ・ (Windows で SQ01 をお使いの場合)
 - トラックビューウィンドウのスクロール画面が切り替わるタイミングで音が途切れる場合は、ASIO のレイテンシー設定を遅くするか、SQ01 の [設定] メニュー [スクロールモード] で「スクロールオフ」を選択してください。

■ 正常にサスペンド、レジュームができない

- ・ オーディオアプリケーションが起動している状態で、サスペンドに移行していませんか？
- ・ お使いのコンピュータによっては、サスペンド、レジュームできない場合があります。その場合は、USB ケーブルを接続しなおしてください。

■ 録音した音量が小さい

- ・ コンピュータのボリューム設定が小さくなっていませんか？
 - (Windows の場合)「ボリュームコントロール」で音量を最大値に設定することをおすすめします (P.41)。

■ 音にノイズがのる

- ・ (Macintosh の場合)
 - 一部の Macintosh コンピュータ(主に 2000 年夏以降に発売されたモデル)では、録音時にノイズがのることが確認されています。対策として、以下の方法を推奨しております。
 - ・ ネットワークに LAN で接続している場合は、LAN ケーブルを接続したままにします。
 - ・ モデムを使用またはネットワークに接続していない場合は、コントロールパネルの「TCP/IP」の経路先を「PPP」に設定します。

■ UW500 の電源を切る、または USB ケーブルを抜くと、コンピュータが再起動する

- お使いの環境によっては、上記の問題が発生する場合があります。その場合は、コンピュータを先に終了するようにしてください。

■ MIDI とオーディオの同期がずれる

- ・ (Windows で SQ01 をお使いの場合)
 - SQ01 の [設定] メニュー [オーディオ] [オーディオリセット] を実行してみてください。

ユーザーサポートのご案内

ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方々をサポートし、関連情報をご提供するために、付属のアプリケーションソフトウェアをご購入いただいたお客様を登録させていただいております。

つきましては、お手数とは存じますが、製品に同梱しております「ユーザー登録カード」に必要な事項をご記入の上、至急ご返送くださいますようお願い申し上げます。弊社にてお客様の登録を行ない、折り返しユーザーID番号をご案内いたします。

このユーザーID番号は弊社が以下のサポートをさせて頂く際に必要な番号ですので、大切に保管してください。(ユーザーID番号は、アプリケーションソフトをインストールする際に入力する番号とは異なります。)

ユーザー登録手続きを完了された方に限り、以下のサポートを行なわせていただきます。

ご注意

サービスの種類によっては、CD-ROM ディスク(以下ディスクと呼ぶ)の返送が必要になりますが、その際お送りいただいたディスクが弊社製品と確認できない場合、サポートサービスはお受けになれません。あらかじめご了承ください。

無償サポートサービスについて

1. ご購入時に正常に動作しないディスクの修復

製品には万全を期しておりますが、万一ディスクに記録されたプログラムなどの内容が、ご購入時にすでに破壊や欠損を起こしていたために正常に動作しない場合、ディスクの内容を修復(交換またはフロッピーによる修復)いたします。

下記の「ディスク修復のお申し込み方法」に従ってお申し込みください。

* 「ご購入時」とは、製品をお求めいただいてから14日以内とさせていただきます。

* お送りになる前に、お送りいただく旨を、必ず下記の「CBX インフォメーションセンター」までご連絡ください。

ディスク修復のお申し込み方法

1. 修復に必要なディスクのほかに、「ユーザー登録カード」に必要な事項(ご住所、お名前、電話番号)をご記入の上、動作の状態などを明記した文書をご同封ください。宛先は次ページの「CBX インフォメーションセンター」です。
2. 返送の途中でディスクが破損しないように十分注意して包装してください(返送の途中でディスクが破損または紛失した場合、弊社では責任を負いかねます)。
3. ご返送には、郵便書留か宅配便をご利用ください(宅配便の場合は、着払(弊社負担)をご利用いただけます)。

2. 質問の受付

ユーザー登録手続きを完了された方に限り、本製品の使用方法や関連情報などについて、電話やお手紙による質問をお受けいたします。下記の「CBX インフォメーションセンター」までお問い合わせください。

お問い合わせの際には、製品名、ユーザー ID 番号、ご住所、お名前、電話番号を必ずご明示ください。また、ご使用のパソコンの種類、操作の手順やそれによる結果と状態、入力されたデータの内容なども詳しくお知らせください。お客様からの情報が不足している場合は、ご返事できない場合があります。

CBX インフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町 10-1

ヤマハ(株)CBX インフォメーションセンター

TEL:053-460-1667

受付日月曜日～金曜日(祝祭日およびセンターの休業日を除く)

受付時間 10:00～12:00/13:00～17:00

* ユーザーサポートサービスは日本国内においてのみ有効です。

住所 / 氏名の変更 (同一使用者の範囲内)

ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」などを変更された場合は、「製品名」、「ユーザー ID 番号」、「旧住所 / 旧氏名」、「新住所 / 新氏名」を明示の上、ご面倒でも CBX インフォメーションセンターまで郵便でご通知ください。折り返し手続き完了のご連絡をさせていただきます。

有償サポートサービスについて

1. 有償サポートサービスの内容

お客様が本製品を使用中に、ディスクを破損された場合、有償でディスクの内容を購入時と同等に修復(交換またはフロッピーによる修復)いたします。必要事項をご記入の上、手数料(¥5,000:消費税込み)と破損したディスクを添え「有償サポートサービスのお申し込み方法」にしたがってお申し込みください。

* 有償サポートサービスの受付期間は、お客様が本製品をご購入後、一年以内とさせていただきます。

* お申し込みになる前に、必ず CBX インフォメーションセンターまでご連絡ください。

ユーザーサポートのご案内

2. 有償サポートサービスのお申し込み方法

CBX インフォメーションセンター宛に直接お申し込みください。

このサービスは、お買い上げの販売店では、受け付けておりません。

1. 下記の「破損ディスク修復申込書」に必要な事項をもなくご記入の上、手数料とともに、CBX インフォメーションセンターまで現金書留にてお送りください。

* お客様からの CBX インフォメーションセンターへの送料は、お客様にてご負担ください。

2. CD-ROM を送付される場合は、ご住所、お名前、電話番号、ユーザー ID 番号を明記して、CBX インフォメーションセンターまで、郵便書留にてお送りください。なお、郵送の途中でディスクが破損しないように、十分注意して包装してください。

* 普通郵便などでお送りになられた際の事故につきましては、当社では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

* 必ずご登録いただいたご住所、お名前でお申し込みください。

* お申し込みいただきましたディスク（または修復データを収録したフロッピー）は、手数料の確認の後、登録されたご住所に発送いたします。お申し込み後、2 週間過ぎても製品が届かない場合は、CBX インフォメーションセンターまでご連絡ください。

破損ディスクの修復申し込み

有償サポートサービスの「破損ディスクの修復」の申し込みをされる場合は、下の申込書をコピーしてご使用ください。

「UW500 破損ディスク修復申込書

ご住所 -

お名前

電話番号

E-mail アドレス

ユーザーID 番号

破損ディスク「UW500」CD-ROM

破損ディスクの修復の手数料は ¥5,000 (消費税込) です。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後 8 年です。

修理のご依頼

まず本書の「故障かな？と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお申し付けください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点 (修理受付および修理品お持ち込み窓口)

北海道サービスステーション 〒064-8543	札幌市中央区南 10 条西 1 丁目 1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6108
仙台サービスステーション 〒984-0015	仙台市若林区卸町 5-7 仙台卸商共同配送センター 3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター 〒143-0006	東京都大田区平和島 2 丁目 1 番 1 号 京浜トラックターミナル内 14 号棟 A-5F	TEL (03) 5762-2121
浜松サービスステーション 〒435-0016	浜松市和田町 200 ヤマハ (株) 和田工場内	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター 〒454-0058	名古屋市中区玉川町 2-1-2 ヤマハ (株) 名古屋流通センター 3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター 〒565-0803	吹田市新芦屋下 1-16 ヤマハ (株) 千里丘センター内	TEL (06) 6877-5262
四国サービスステーション 〒760-0029	高松市丸亀町 8 - 7 (株) ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL (087) 822-3045
九州サービスステーション 〒812-8508	福岡市博多区博多駅前 2 - 11 - 4	TEL (092) 472-2134
[本社]		
CS センター 〒435-0016	浜松市和田町 200 ヤマハ (株) 和田工場内	TEL (053) 465-1158

営業窓口

PA・DMI 事業部		
PE 営業部		
MP 営業課	〒430-8650	静岡県浜松市中沢町 10-1 TEL (053) 460-2432
EM 営業統括部		
企画推進室	〒108-8568	東京都港区高輪 2-17-11 TEL (03) 5488-5430
EM 営業統括部 各地区お問い合わせ先		
EM 北海道	〒064-8543	札幌市中央区南 10 条西 1 丁目 1-50 (ヤマハセンター) TEL (011) 512-6113
EM 仙台	〒980-0804	仙台市青葉区大町 2-2-10 TEL (022) 222-6147
EM 東京	〒108-8568	東京都港区高輪 2-17-11 TEL (03) 5488-5471
EM 名古屋	〒460-8588	名古屋市中区錦 1-18-28 TEL (052) 201-5199
EM 大阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場 3-12-9 (心斎橋プラザビル東館) TEL (06) 6252-5231
EM 九州	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前 2-11-4 TEL (092) 472-2130

ヤマハデジタル楽器・DTM 製品ホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/>

ヤマハマニュアルライブラリー <http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/>

「音楽する人、音楽したい人のための頼れるポータルサイト」

ミュージックイークラブ・ドットコム <http://www.music-eclub.com>

@nifty

「GO FMIDIVA」コマンドで FMIDIVA に入ると、ヤマハデジタル

楽器および DTM 製品のフォーラムがございます。

電子会議 #16 ヤマハ Synth & CBX 情報ボード

#17 ヤマハ Synth & CBX ユーザーズカフェ

#18 ヤマハ Synth & CBX 相談室

データライブラリー #8 ヤマハ / デジタル CBX

* 名称、住所および電話番号などは変更になる場合がございます。

ソフトウェアのご使用条件

弊社では本ソフトウェアのお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについて、＜ソフトウェア使用許諾契約＞を設けさせていただいており、お客様が下記条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。

ディスクの包装を解かれた場合は下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みの上開封してください。

ご同意いただけない場合は、未開封のまま速やかに（14日以内に）ご返却ください（ただし、本ソフトウェアをソフトウェアパッケージの一部として、またはハードウェア商品の付属ソフトウェアとしてお求めいただいた場合、本ソフトのみの返却はお受けいたしません）。

ソフトウェア使用許諾契約

1. 著作権および使用許諾

弊社はユーザー登録されたお客様に対し、本ソフトウェアを構成するプログラム、データファイル及び今後お客様に一定の条件付きで配布され得るそれらのバージョンアッププログラム、データファイル（以下「許諾プログラム」といいます）を、お客様ご自身が一時に一台のコンピュータにおいてのみ使用する権利を許諾します。これらの許諾プログラムが記録されているディスクの所有権は、お客様にあります。が、許諾プログラム自体の権利及びその著作権は、弊社が有します。

2. 使用制限

許諾プログラムは著作権を持つ情報を含んでいますので、その保護のため、お客様が許諾プログラムを逆コンパイル、逆アセンブル、リバース・エンジニアリング、またはその他の方法により、人間が感得できる形にすることは許されません。許諾プログラムの全体または一部を複製、修正、改変、賃貸、リース、転売、頒布または許諾プログラムの内容に基づいて二次的著作物をつくることは許されません。許諾プログラムをネットワークを通して別のコンピュータに伝送することも許されません。

3. 終了

本使用条件はお客様が許諾プログラムをお受け取りになった日に発効します。本使用条件による使用許諾は、お客様が著作権法または本使用条件の条項に1つでも違反されたときは、弊社からの終了通知がなくとも自動的に終了するものとします。その場合には、ただちに許諾プログラムとその複製をすべて廃棄しなければなりません。

4. 製品の保証

弊社は、お客様が許諾プログラムをお受け取りになった日から14日間に限り、媒体に物理的な欠陥があった場合には、その原因が事故、乱用、誤用など弊社の責に帰さない事由による場合を除き、無償で同種の良品と交換させていただきます。

5. 責任の制限

弊社は、許諾プログラムの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害（データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む）については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生や第三者からの賠償請求の可能性があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

6. 第三者のソフトウェア

弊社は、本ソフトウェアとともに、第三者のプログラム、データファイルおよびそれに関するドキュメンテーション（以下「第三者ソフトウェア」といいます）を提供する場合があります。別の規定に従い取り扱われるべき旨の記載が、本ソフトウェア付随のマニュアルに記載されている場合には、本使用条件にかかわらず、その別の規定に従い取り扱われるものとし、弊社によるアフターサービスおよび保証などについては、以下の規定が適用されるものとします。

弊社は、第三者ソフトウェアに関しての操作方法、瑕疵その他に関してアフターサービスを提供するものではありません。

弊社は、第三者ソフトウェアの商品性、および特定目的に対する適合性の保証その他一切の保証を、明示であると黙示であるとを問わず、一切いたしません。第三者ソフトウェアの使用もしくは機能から生じるすべての危険は、お客様が負担しなければなりません。

弊社は、第三者ソフトウェアの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害（データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む）については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

7. 一般事項

本契約は、日本法の適用を受け、日本法に基づいて解釈されるものとします。

ヤマハ株式会社



この取扱説明書は
エコパルプ(ECF:無塩素系漂白パルプ)
を使用しています。



この取扱説明書は
大豆油インクで印刷しています。

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

WA10880

207APAP5.2-01A0

M.D.G., PA・DMI Division, Yamaha Corporation
©2002 Yamaha Corporation